

2015年12月23日（水・祝）15時26分～17時22分
於 シダックスビレッジ1階 東京メインダイニング

民主党ハイスクール 1時限目 渋谷

目次

オープニング	1
パネルディスカッション「10代と政治」	7
趣旨説明・パネリスト紹介	7
そもそも政治に関心ある？	8
どういう視点で投票する？	10
なぜ18歳？	11
会場との意見交換	13
ネットと政治との距離は縮まる？	19
若者の投票率を上げるためには？	22
投票に行く意味？	24
政治家ってどんな人？	29
若者からの問題提起	31
最後に一言	35
閉会のあいさつ	36

15 時 26 分開会

オープニング

○ウェルダン福ヶ迫 どうも～、よろしくお願ひします。(拍手) ありがとうございます、拍手いただきまして。

○ウェルダン穂積 (ハリー・ポッター風のコスプレで登場し) テンテレ～テンテレテンテン～……「エクスペリアームス! (武器よ去れ!)」

○ウェルダン福ヶ迫 ごめんなさいね、本当にね。ヤバい奴来たぞ、みたいなね。

○ウェルダン穂積 出たよ～、これ。僕の名前、「ハリー (はじめ)」

○ウェルダン福ヶ迫 どういうこと? 伸ばさない?

○ウェルダン穂積 伸ばさない。伸ばさないで、漢数字なんだね、これね。ワーナー・ブラザーズに訴えられたらかなわんからねえ。

○ウェルダン福ヶ迫 見てみ、カメラ構えて、一気に下げたで。

○ウェルダン穂積 ありがとうございます。前説をさせていただきます。魔法かけようかな。

○ウェルダン福ヶ迫 せっかくだからね。

○ウェルダン穂積 魔法かけていいかな。「ウィンガーディアム・レビオーサ! (浮遊せよ!)」

○ウェルダン福ヶ迫 それは何の魔法なんすか?

○ウェルダン穂積 今の魔法、物が浮く魔法なの。

○ウェルダン福ヶ迫 浮いていないじゃない。

○ウェルダン穂積 どうやら、僕のほうが浮いちゃったみたいだね……。

○ウェルダン福ヶ迫 どっひゃ～……どうすんだよ、これ。どうすんの、これ?

○ウェルダン穂積 立ち位置、逆になったからな。

○ウェルダン福ヶ迫 そのせいじゃないだろ。逆だったのは逆だったけど。

○ウェルダン穂積 今ちょうど、(パネルディスカッションに) 出演される方が上で自己紹介、ワイワイキャッキヤしてるんで。

○ウェルダン福ヶ迫 パネラーの方がね。ワイワイキャッキヤしていますよ。音、漏れるんじゃないかっていうぐらいね。

○ウェルダン穂積 僕、ハリーなんだけど——。

○ウェルダン福ヶ迫 戻るんかい。

○ウェルダン穂積 「ディス・イズ・ポリジュース」

○ウェルダン福ヶ迫 ああ、魔法アイテムだ。飲んだら変身するやつ。

○ウェルダン穂積 これ飲んで、今話題のあの人が変身するから。

○ウェルダン福ヶ迫 え～、誰? 話題のあの人。さあ一体誰ですかね。楽しみですね。今、話題ですからね。今回はね、ハリー・ポッターよりも“でき”がいいはずですよ。さあ、そ

ろそろ登場かな。

○ウェルダン穂積 (スーツ姿になり)「東京中央銀行、半沢直樹です。やられたらやり返す、倍返しだ！」

○ウェルダン福ヶ迫 ……古くない？

○ウェルダン穂積 2015。

○ウェルダン福ヶ迫 いやいや、そういうことじゃなくてさ。そこ足してもさ。

○ウェルダン穂積 倍返しするけれども、「安心してください、履いてます」から！

○ウェルダン福ヶ迫 ……いや、足しちやったよ。人の、足しちやったよ。見てみ、ポカーンとしているから。ポカーンとするよね、そんなもんね。

○ウェルダン穂積 こういう前説——。

○ウェルダン福ヶ迫 オレンジジュース飲む。

○ウェルダン穂積 ドリンクバーが。ウーロン茶、オレンジジュースとありますから。

○ウェルダン福ヶ迫 今は大丈夫ですから。

○ウェルダン穂積 始まってしまうと、ドリンクバー、取れなくなっちゃうので。閉まっちゃうので。始まる前は、何個でも周りに置いておいていいんです。

○ウェルダン福ヶ迫 いっぱい持ってきたら邪魔やろ。ガチャンガチャン鳴るからね。

○ウェルダン穂積 そんで混ぜてもいいですよ、ウーロン茶とオレンジね。4：6で混ぜても。

○ウェルダン福ヶ迫 いやいや、いいけど、おいしくないですよ、別に。

○ウェルダンウ穂積 注意事項としましては、登壇された方が出てきても、あまり大きな声を出さないみたいな感じで。拍手とか、少しぐらいはいいと思うんですが。大騒ぎしなげりや。

○ウェルダン福ヶ迫 そんなん、ならない感じだと思うよ。

○ウェルダン穂積 ウロウロ歩きまわったりしないように。

○ウェルダン福ヶ迫 日本代表が勝った！みたいな感じにならなければね、大丈夫ですから。あと写真撮影がだめなんです。

○ウェルダン穂積 そう、個人の写真撮影を、カシャってやりたいとは思うんですけども、イベント中は一応、お断りになっていますので。そんな感じです。

○ウェルダン福ヶ迫 よろしくお願ひします。

○ウェルダン穂積 で、僕ら自己紹介が遅れてすみませんが、ウェルダンっていいます。

○ウェルダン福ヶ迫 よろしくお願ひします。

○ウェルダン穂積 肉の焼き加減でおなじみの。

○ウェルダン福ヶ迫 よく焼いたやつ。

○ウェルダン穂積 「いきなりステーキ」でおなじみの。ウェルダンと申します。僕ら、知らないと思うんですけども、なんでウェルダンというのが出てきたのか。なんで僕達が全く無名か、これはちゃんとわけがあるんですよ。

○ウェルダン福ヶ迫 わけがあるんだ。

○ウェルダン穂積 なぜかという、ウェルダンと言うんですけれども……おもないでええええええええええ。

○ウェルダン福ヶ迫 ……長いね、きょうね。やめてもらっていいですか、そのビブラートが長いバージョンが一番ムカつくんで。

○ウェルダン穂積 おもしろくないから、みんなに知られていない。当たり前のことですよ。

○ウェルダン福ヶ迫 言わないでいいじゃない。

○ウェルダン穂積 でも……頑張りやああああああああああああああああ。

○ウェルダン福ヶ迫 おまえが頑張りよ！なんで、頑張りやって言うの。

○ウェルダン穂積 応援してくれる人が頑張れば、僕らも有名になっていく。

○ウェルダン福ヶ迫 まあね。皆さんが頑張ってもらえれば有名になりますよと。

○ウェルダン穂積 他力本願で。

○ウェルダン福ヶ迫 ええ、頑張っていきましょう、本当にね。

○ウェルダン穂積 で、民主党の枝野幹事長。

○ウェルダン福ヶ迫 きょうお越しになる。

○ウェルダン穂積 枝野幸男さんという幹事長をしておられる方がきょう来られるんです。偉い方が。この人、東日本大震災があった時に、すごい首相官邸で仕事をずっとして、次の日になっても寝ていないから、目の下にクマができてテレビに出ているから、その枝野さんという人の名前からとって、寝ずに仕事することを「枝る」という。

○ウェルダン福ヶ迫 ちょっとはやったんですね、言葉がね。

○ウェルダン穂積 そう、2chとかで、「枝る」って。仕事ずっと徹夜してやるのを「枝る」っていうんですけれども。

○ウェルダン福ヶ迫 その方がきょうお越しになると。

○ウェルダン穂積 だから、きょう枝野さんが来るからって、持ってきた？あれ。

○ウェルダン福ヶ迫 「あれ」って何よ？

○ウェルダン穂積 ニンテンドー3DS。

○ウェルダン福ヶ迫 別に枝野さん、関係ないでしょう。

○ウェルダン穂積 いや、枝野さんとモンハン（モンスターハンター）のすれ違い、できるんだよ。

○ウェルダン福ヶ迫 やってんの！？枝野さんやってんの！？

○ウェルダン穂積 うん、枝野さんやってるよ。ハンターランク 150だよ。

○ウェルダン福ヶ迫 かなりやってるんじゃない、もう。もう枝ってるじゃん。モンハンで枝ってるじゃん。すごいね。

○ウェルダン穂積 さっき僕ね、きょう出てくる人が楽屋にいたんで。

○ウェルダン福ヶ迫 パネラーの方ね。モデルさんとかね、すごいメンバーですから。

○ウェルダン穂積 すれ違ったんですけれども、もうドキドキが止まらない。すごいです

よ！ドキドキしちゃって、まだドキドキが止まらない。

○ウェルダン福ヶ迫 まあね、オーラが違うからね。

○ウェルダン穂積 どんぐらいハンターランク行ってるのかなと思って。

○ウェルダン福ヶ迫 すれ違ってるのかよ。みんな、やってるの？じゃあ今みんなでやっているよ。そしたら、当分降りてこないよ。

○ウェルダン穂積 やっていますか。

○ウェルダン福ヶ迫 やっていないから、たぶんね。

○ウェルダン穂積 18歳以上の選挙権が来年から始まるというのの漫才を、僕ら作らせてもらいました。

○ウェルダン福ヶ迫 そうなんですよ、せっかくなんでね。

○ウェルダン穂積 ちょっとだけ見てもらいましょうか。

○ウェルダン福ヶ迫 そうですね。あまりにも、だったら途中で止めますので。

○ウェルダン穂積 もうすぐ皆さん降りてくると思うので、その間、ちょっと、前説で。ちなみに僕ら、秋葉原でいつもコスプレしてまして、僕、だから半沢直樹の、「半沢直樹 コスプレ」で検索したら山ほど出てくるんです。

○ウェルダン福ヶ迫 画像がね、出てくる。

○ウェルダン穂積 秋葉原とニコニコ生放送の界限では、「ああ、あの人だ」と、たぶん言われると思う。

○ウェルダン福ヶ迫 この間の「ゆるキャラグランプリ」に、民主くんの応援で行ったんでしょう？

○ウェルダン穂積 そうです。

○ウェルダン福ヶ迫 で、民主くん、何位だったんですか？

○ウェルダン穂積 民主くん、100何位か（総合142位、企業・その他部門42位）でしたよね。すごかったんですよ、1,000体以上いるゆるキャラの中で、かなり上位のほう。

○ウェルダン福ヶ迫 1,000体以上いる中の、100何位だったの！？そうなんだ。すごいね！

○ウェルダン穂積 しかも3日間、僕一緒にいたから、だんだんかわいくなってきて。

○ウェルダン福ヶ迫 「初めかわいくなかった」みたいなこと言ってるんだよ。「初めからかわいかった」でいいじゃないかよ。

○ウェルダン穂積 いや初見は、なんだこれ！？っていう感じなの。

○ウェルダン福ヶ迫 きょう初めて見たっていう方、たぶんいっぱいいますよね、民主くんね。「知っていたよ！」っていう人、いるのかな？

○ウェルダン穂積 いないですよ。

○ウェルダン福ヶ迫 「いないですよ」とか言うなよ、おまえ。(笑い) いないことはないよ、結構いるわ。

○ウェルダン穂積 そんなにメジャーじゃないはずなんです。唇のところが魚肉ソーセージでできているという設定なんです。魚肉ソーセージなんです。

○ウエルダン福ヶ迫 へ～。なんで魚肉ソーセージでできているのか。

○ウエルダン穂積 なんですか。それはわからないんですよ。ツイッターとか見ると、結構、過激な発言をしている。「民主党」という看板を背負っている割にはかなりゆるいというか、2chの書き込みみたいな発言をしているので。

○ウエルダン福ヶ迫 民主くん？マジで！？すごいね。

○ウエルダン穂積 おもしろいですよ、本当に。

じゃあ、ネタ行きましょうか。

○ウエルダン福ヶ迫 ああ、そうね、なかったことにしちゃいましたけど。

○ウエルダン穂積 尺的にはいいよ。じゃあ漫才いきます。こんなんやっているよって。

○ウエルダン福ヶ迫 サワリでね。

どうも～！よろしくお願いします～！ウエルダンと申します！ねえ、頑張りましょう、ホントに。

○ウエルダン穂積 はい、アキバの皆さ～ん、こんにちは～。

○ウエルダン福ヶ迫 いや、渋谷ね！渋谷だから。普通に間違えた、みたいになってるけど。

○ウエルダン穂積 あのね、来年から18歳以上の選挙が始まるんですけど。

○ウエルダン福ヶ迫 年齢が下がってね。

○ウエルダン穂積 そう。だから初めて行くっていう人、多いと思うんですよ。選挙、メチャメチャ楽しいよ、行ったほうがいいよ。

○ウエルダン福ヶ迫 楽しいの？俺は行ったことあるけど、楽しいっていう感じじゃなかったよ。

○ウエルダン穂積 選挙の、投票所っていうところに行くんですけど、そしたら選挙管理委員会っていう受付の人、おばちゃんが座っているんですよ。

○ウエルダン福ヶ迫 ああ、座っているね。座っている、座っている。

○ウエルダン穂積 そのおばちゃんの前にお茶が置いてあるんですよ。

○ウエルダン福ヶ迫 うん、あるね。たぶん、ある。

○ウエルダン穂積 それ、飲んでいいから。

○ウエルダン福ヶ迫 いや、飲んじゃだめだよ！それはおばちゃんのだから。

○ウエルダン穂積 18歳になって初めて選挙来た！ってなるから、飲んでも怒られないから。

○ウエルダン福ヶ迫 いや、怒られはしないけども……。

○ウエルダン穂積 お茶飲めるから！選挙行ったらお茶飲めるの！

○ウエルダン福ヶ迫 どれだけ貧しいんだ。お茶ぐらいで行かないから！

○ウエルダン穂積 その選挙の受付のおばちゃんと間接キスになるから。

○ウエルダン福ヶ迫 したくないよ！そこ狙っていかないでしょう、別に。

○ウエルダン穂積 楽しいよ。

○ウエルダン福ヶ迫 楽しくないよ！

○ウエルダン穂積 選挙ね、何が楽しいかっていうと……。

○ウエルダン福ヶ迫 ああ、そこじゃないのがあるのね。なにになに。

○ウエルダン穂積 ジバニャンいるよ！

○ウエルダン福ヶ迫 ……いないよね。

○ウエルダン穂積 ジバニャンいるよ！

○ウエルダン福ヶ迫 いない、いない。そのジバニャンに媚びた感じの言い方、やめろよ。ジバニャンいたら来る、みたいなさ。

○ウエルダン穂積 あのジバニャンが！

○ウエルダン福ヶ迫 いや、いないでしょう。

○ウエルダン穂積 民主ニャンもいるかもしれないね！

○ウエルダン福ヶ迫 民主ニャンもいるの！？妖怪だぜ、仮にもあれは。

○ウエルダン穂積 何かいっぱいいるからね。キティちゃんは普通にいるね。

○ウエルダン福ヶ迫 コラボしちやってるんだ、もう。いろいろなものとコラボして、最終的に選挙とコラボしちやってるんだ。

○ウエルダン穂積 選挙は、もし皆さんが投票所に行って選挙をして、もしかするとよ、たまたま投票所に来て投票をしていた福山雅治に会えるかもしれない。

○ウエルダン福ヶ迫 いや、同じ選挙区だったらね。

○ウエルダン穂積 あるある。

○ウエルダン福ヶ迫 ないわ～。いや、ないよ！

○ウエルダン穂積 あるよ。

○ウエルダン福ヶ迫 すんごい低い確率でね。

○ウエルダン穂積 福山雅治さんがいて、「どうも、福山雅治です」。

○ウエルダン福ヶ迫 そんなサービス精神旺盛じゃないでしょう。名乗りはしないでしょ、さすがに。

○ウエルダン穂積 いるいる。

○ウエルダン福ヶ迫 いるかもしれないけれども。

○ウエルダン穂積 選挙の投票所に行ったら、たまたまよ。

○ウエルダン福ヶ迫 穂積さん、そろそろお越しになりましたよ。よかったですね～。

○ウエルダン穂積 僕らまだ時間あるでしょう。

○ウエルダン福ヶ迫 どんだけ引っぱりたいの！

○ウエルダン穂積 ……いいの、これ？OK？

○ウエルダン福ヶ迫 OK 出ました！

○ウエルダン穂積 皆さん、選挙に行ったら芸能人に会えると。

○ウエルダン福ヶ迫 そういうことじゃないから！

○ウエルダン穂積 では皆さん、「民主党ハイスクール1時限目 渋谷」、ぜひ楽しんで帰ってってください。

○ウェルダン福ヶ迫 この後、西田先生からイベント趣旨説明がありますので。

○ウェルダン穂積 では、お願いしてよろしいでしょうか。西田先生、よろしくお願いま～す！（拍手）

[西田モデレーター登壇]

パネルディスカッション「10代と政治」

趣旨説明・パネリスト紹介

○西田亮介氏（東京工業大学准教授・モデレーター） 皆さん、初めまして。西田と申します。これから2時間、おつき合いいただくことになろうかと思いますが、まず登壇者の皆さんに入場いただくことにしましょう。皆さん、拍手でお迎えください。（拍手）

[パネリスト登壇]

○西田モデレーター さて、これから2時間にわたって、先ほどウェルダンさんのほうからご紹介があったとおり、皆さんと、それからパネラーの皆さんの間で政治について語っていきこうという“硬い”企画になっているんですが、大丈夫なんでしょうか。きっと大丈夫なはずですね。

何はともあれ、自己紹介をしていくのがよいと思います。改めてですが、これから2時間、司会を担当させていただきます西田といいます。社会学者で、東京工業大学という大岡山にある大学の准教授をやっています。社会学を専門にっていて、選挙とか政治の話を研究しています。

では松本さんから自己紹介を簡単にお願いできればと思います。よろしくお願いま～す。

○松本鈴香^{れいか}さん（読者モデル） はい。普段、読者モデルをやっています松本鈴香です。「れぴちゃん」って呼ばれています。きょうはよろしくお願いま～す。（拍手）

○黒川祐希^{ゆうき}さん（高校生ライター） はじめまして。ライターをやっていて、取材したりとか、自分で執筆したりとか、いろいろしています、黒川祐希です。よろしくお願いま～す。（拍手）

○RaMu^{らむ}さん（アイドルグループ「KissBee」研究生） Vine（短時間動画共有サービス）やミックスチャンネル（同）に動画を載せているアイドル、一応アイドルをやっています、RaMuです。よろしくお願いま～す。（拍手）

○紗蘭^{さら}さん（読者モデル・アーティスト） 普段、読者モデルとアーティストのお仕事をしています紗蘭です。よろしくお願いま～す。（拍手）

○藤井サチ^{さち}さん（『Seventeen』専属モデル） 藤井サチです。『Seventeen』という雑誌のモデルをさせていただいています。きょうはよろしくお願いま～す。（拍手）

○枝野幸男（民主党幹事長・衆議院議員） では、私も自己紹介しましょうか。民主党で幹事長をやっております、衆議院議員の枝野幸男です。よろしくお願いま～す。（拍手）

○西田モデレーター さて、きょうは民主党さんの企画ということで、イベントの趣旨になるんですが、最初にちょっとこの会場に来ている皆さんに聞いてみたいと思うんですが、僕と枝野幹事長は置いておくとして、僕達2人以外の皆さんのファンだという方、ちょっと挙手をいただいてもいいですかね。

あれ？手を挙げていない人がいるということは、僕と枝野幹事長のファンも結構な割合でいると。(笑い)

○枝野幹事長 後ろは取材。

○西田モデレーター そうですね。でも、あそこら辺の方とかいらっしやったと思うんですけども。

いずれにせよ、もともとあまり政治に関心がない——しかしある人もいるかもしれないですよ、皆さんがいらっしやっていて、きょう何をするかという話で言うと、実は今まで選挙権、投票できる権利というのは20歳にならないと得られなかったんですね。それが2015年に公職選挙法の改正があって、衆議院選挙と参議院選挙があるんですが、来年の参議院選挙から投票できるのが18歳に引き下げられる。これを「18歳選挙権」と呼ぶのが通例化しているんですね。それに伴って、国とか、それから総務省が、若い人たちにも政治のことをもっと知ってもらいたいという企画を始めています。

これは皆さんのお手持ちの資料の中にもあると思うんですが、若い人たちのほうがあまり政治に関心を持っていない、投票にも行かないということがデータでも示されているんです。でも、それだとよくないということが言われていて、もっと政治と若い人たちの距離を縮めていこうという企画を民主党さんはされて、きょうこういうイベントが行われることになったということなんです。

そもそも政治に関心ある？

○西田モデレーター まず、パネラーの皆さんにちょっとずつ聞いていきたいと思うんですが、パネラーの皆さんの中で、「政治が好きだ」というと変なのですが、「とても興味がある」とか「関心を持っている」という方、挙手いただいてもいいですかね。

[RaMuさん挙手]

○西田モデレーター おっ、一人。ではお願いします。政治にどういう時に関心を持って、政治に何を言いたいかということを知りたいですかね。

○RaMuさん そうですね、ぶっちゃけ言って、この討論会のお仕事に来た時に、私、すごい調べたんですよ。

○西田モデレーター いいですね。それが重要ですよ。

○RaMuさん それまでは本当に苦手分野で。授業とかで結構習っていたんですけど、テストも全然だめで、本当に苦手分野だったんですけども、討論会があるので急いで頑張って勉強したら、ちょっと興味が湧いてきて、「ああ、いいかも」みたいな。きょうみたいな機

会は全然ないので、自分の意見も言って、枝野さんにいっぱい聞きたいなと思ってきょうは来ました。よろしくお願いします。

○西田モデレーター よろしくお願ひします。すばらしいですね。

○藤井さん 私もそんな感じですよ。今回これがあるから、ちょっと勉強しようかなって。それまで全く興味がなくて、きょうのことがあるから、ちょっと勉強してきました。

○西田モデレーター そういうのは重要で、僕は逆に、政治は仕事だから普段見ているんですが、皆さんについて勉強してきて。実はここにいらっしゃる皆さんって、ネットとかのフォロワーがすごいんですよ。ということは、皆さんが「関心がある」ということになると、皆さんをフォローしている人たちも政治に関心を持ってもらえる、いいきっかけになるかもしれないですね。枝野さん、どうですかね。

○枝野幹事長 そうですね、でも大体政治に関心を持つって、何かそういうきっかけがないと、普通は持たないですよ。だから、これでいいんだと思いますよ。皆さんが関心持ったせいで、何か皆さんがツイッターでつぶやいたりしたので、「あれ？」とか思って関心を持ってくれる人がいればいいなと思います。

○藤井さん はい、ぜひそうなってほしい。

○RaMuさん 貢献できれば。(笑い)

○西田モデレーター 今、「関心がある」という方からお話を伺ったんですが、今まで全然関心がなかった、今もあまり「関心がない」という方、いらっしゃいますか。「関心がない」ところいうところで言うのも変だと思うんですが。

[松本さん、黒川さん、紗蘭さん挙手]

○西田モデレーター では、せっかくなので、お願いします。

○松本さん 私、ことし20歳になったんですが、選挙に行ける年齢になって、まず選挙に参加しなければいけないというのがあると思うんですが、誰に投票していいのとか、まず政治の内容がわからな過ぎて、全然投票に行こうとも思えないという感じで、きょうはこの機会にいろいろ聞けたらなと思っています。

○黒川さん 政治って、やっていることとか取り扱っているものが大き過ぎて、選挙をして自分の意見を反映しているというのはわかるんですが、実感がわからないとか、遠い存在みたいな感じになってしまっていて、あまり興味を持ってないですね。

○紗蘭さん 私、今18歳なんですけど、今度18歳も選挙に参加できるということで、政治とか選挙はあまり興味がないんですけども、今回、選挙には行きたいと思っている側なので。今回のお話をいろいろ聞いたりして、自分も選挙に行きたいなと思っているので、その参考になればいいなと思っています。

○西田モデレーター なるほど。サクッとまとめると、「難しすぎる」という話と、「何を選んでいいのかわからない、身近でない」という話と、「どうやって選べばいいかわからない」というお話があったと思うんですが、枝野さん、ちなみにこれはどうすればいいですか。

○枝野幹事長 確かに政治のことを全部知ろうと思ったらものすごく難しくって、政治の仕

事をしていても全部はわかりません。自分が担当しているところ以外は全然わからないのが正直なところだから、全部わからなくてもいいのだけれども、それぞれ何か関心があることがあると思うんですよね。最近だと、どうだろう、例えばこのすぐそばにオリンピックの競技場ができますよねと。二つ案が出ていて、Aになりましたよねと。

○紗蘭さん 白紙になったやつ。

○枝野幹事長 そうそう。あれも一応、政治と言えば政治だし、エンブレムの話だって政治だし。それから皆さんの世代だと、小学校とか中学校の時に、校舎が補修工事とかしませんでした？

○藤井さん しました。すごいバツメンみたいのが付いて。

○枝野幹事長 そうですね。あれは、神戸に20年前に大地震があって、それを受けて校舎が地震で倒れちゃうと大変だといって、そこから政治が決めて、学校の耐震、地震があっても倒れないように補強を急ごうとやっていたのにちょうどかぶさっている世代の皆さんだと思いますよ。

○一同 へえ～。

○枝野幹事長 だから皆さんに関わっているんですよ。

○紗蘭さん すげー。(笑い)

○西田モデレーター そうですね、関わっているところから関心を掘り下げて、政治に持っていくというのがいいのかもしれないですね。

どういう視点で投票する？

○西田モデレーター ところで、まだ18歳になっていない方もいるという事前の打ち合わせだったのですが、いずれにせよ近い将来18歳になって投票権を得て投票すると。ちなみに日本国憲法の場合、投票というのは「権利」なので、投票するかしないかも自分で選べると。ちなみに世界の国の中には投票が義務になっている国もあって、例えば投票に行かないと罰金が課せられたりする国もあるんですが、今のところ日本というのはそういうふうにはなっていないという現状があります。せっかく権利を得たわけですから、権利というのは磨いていかないと、使っていかないと、だんだん機能しなくなっていくと言われてます。仮に投票しに行くとは仮定しましょう。そうなったらどういう視点で投票する、あるいは政治に参加しようと思うか。そういうことについて伺っていてもいいですかね。

○藤井さん まず、選挙権を持っていることがすごいとっていて。昔の人って、女性は選挙権を持っていなかったじゃないですか。そこからいろいろな過去の人が頑張って、「女性も選挙権を持とうよ」みたいな感じで築き上げたものだから、国に対して自分の意見を言えるというのがすごいと思うんです。だから、そこをまず感謝するというか、選挙権を持っているということは絶対に当たり前ではないと思うので、それを感謝して。それを行使する。自分が持っている権利を行使するというのはそれこそ当たり前のことだと思うので、持っ

ているからには、それをちゃんと使う。そこからちゃんと国のために考えている人に対して、「この人だったら国を任せられるな」と思った人、自分の意見をちゃんとわかってくれる人に対して投票するのが大切なんじゃないかなって考えます。

○西田モデレーター なるほど。今の指摘は正しくて、投票できるというのは実は当たり前のことではないんですね。おっしゃっていただいたとおり、そもそも今の憲法になる前は女性には投票権がなかったんですね。それから、税金を納めていないと投票できなかった時代もありました。そういう意味では、今、お金を払わなくても、あるいは男性も女性も、投票年齢に達すればみんなが投票できるというのは、当たり前のように見えて意外と当たり前のことではないということがあると思います。

なぜ 18 歳？

○RaMu さん ちょっと聞きたいことがあるんです。すごいいっぱい聞かれていると思うんですが、なんで 18 歳選挙権を与えて、それはなぜ 18 歳なのかと思って。18 歳に引き下げたら投票率が上がると考えたのかなと思って。私、考えたんですけども、関心がない限り絶対に上がらないと思うんです。なんで 18 歳に引き下げたのかということと、あと自民党さんと民主党さんでそういう“言い合い”みたいのはなかったのかなって思いました。

○西田モデレーター いきなりぶっ込んで、いいですね。これはどうでしょうか、枝野さんかな。

○枝野幹事長 「18 歳に下げましょう」とみんなで決めたので、実はそれぞれ国会議員の中でも考えが違うかもしれないけれども、僕は二つ思っていて、一つは、世界の「先進国」と言われるような国々では 18 歳というところで線を引いている国が多い。日本の 20 歳というのはちょっと例外的だということで、世界の標準にこういうのは合わせるのかなというのが一つ。

もう一つは、たぶん例外はたくさんいて、高校行かない人もたくさんいるし、高校途中でやめて、でもまた高校に戻ったり、いろいろな人がいるけれども、圧倒的に数が多いのは 18 歳で高校を卒業する。そうすると、就職しても進学しても、だいぶそこから生活が違う。親元を離れる人も多かったり、かなり自分で自分のことには責任を持みたいな感じになる。やはりそれが普通なんではないか。社会人、例えば高卒で就職して 2 年後から大人と言われても、ちょっと変だなとか、例えば大学に進学して 2 年生の途中で大人と言われるのも変だなとか。そうすると、やはり大部分の人が高校を卒業してというところに線を引くのが一番自然なんじゃないかなと思うし、そのほうがたぶんちょっとは投票率が上がるんじゃないかなと思っていて。なぜかという、僕なんかは 18 歳で親元を離れて大学進学の時に別のところに行って、住民票は親元に残していたりしていた。なおかつ 20 歳になって初めて選挙権で、私は政治に関心を持っていたから投票したけれども、「普通、しないよね」という感じだよ。そういうことを考えると、高校卒業の時に選挙権があるよということにしてお

いたほうが、みんな忘れないんじゃないかなという気がしました。

ORaMu さん もう一つ、その件についてあるんです。高校卒業して18歳に一線を引くってここまでこだわっているのはわかるんですけども、18歳を「成人」と認めないのかなとすごく思っていて。パチスロとかは18歳未満はだめだけれども、18歳以上はいいじゃないですか。でもお酒・タバコはだめじゃないですか。そこの一線、境界線をどういうふうに考えたらいいのかわからないし、ホストクラブとかキャバクラも18歳は大丈夫だけれども、お酒は20歳からですという、なんだろう、この矛盾しているあいまいさを一貫してまとめたほうがいいんじゃないかとすごく思うし、わかりづらいというものもあるんですよ。ここは18歳なのに、なんでこっちは20歳までだめなの、みたいな。私たちはそこが一番、「なんだろう？これ」というのがあるし、2歳差というのはどうしてだろうとすごい思います。

○枝野幹事長 たぶんここから先は人によって国会議員でも意見が違ふし、党の中でも意見が違ったりするのだからだけれども、まず選挙権から18歳にして、「18歳から選挙権にしたら、他のものも大人扱いでいいんじゃないの」という、そういう話し合いは始まっているんです。例えば、結婚するのに20歳までは親の同意が必要だとか、こういうのも18歳でいいんじゃないとか、それから悪いことをして捕まった時に、少年法という法律で保護されるのが、今は20歳だけれども18歳でいいんじゃないとか、いろいろな議論をしている。実は全部を一緒にするのがいいのかどうかということも議論があつて、例えばお酒やタバコは健康との関係だから、それはちょっと違うんじゃないかとかいう説もある。

これはちょっと時間をかけて一個一個全部議論を始めているところではあるので、その境目の変化の時期なので、皆さんそれは割を食っちゃっているかもしれない。もしかすると、もう10年か20年ぐらいたつと、かなりのところ18歳で線引きということになるかもしれない。

ただ、なかなか難しいのは、お酒は18歳でもいいかなと個人的には思うのだけれども、タバコはどうかなとかね。

ORaMu さん ギャンブルとかでも、ギャンブル依存症とかあるじゃないですか。

○枝野幹事長 ギャンブル（公営競技）は、自分で収入を稼いでいないと20歳までだめだったかな。意外とギャンブルは厳しいんです。

ORaMu さん 18歳未満はだめって書いてあるから、私たちはそういう深いところまでわからないから。

○枝野幹事長 パチコンは（18歳以上なら）大丈夫かもしれない。競馬や競輪はだめなんです。

○西田モデレーター 盛り上がってきましたね。一旦、今のところを引き取っていくと、18歳という、世界でスタンダードと言われているんですが、実はこれは実はやや保守的なスタンダードで、アメリカは州によって異なっている。欧州だと18歳がスタンダードなんです。例えばドイツなんかは16歳だったりとか、国によっていろいろあるんですが、18歳というのはその後ろのほうの基準に合わせたという感じですね。

今回の投票年齢の引き下げで新しく、240万人ぐらいの若い人たちが投票者として数が増えると言われたりします。だけど、この240万という数字が多いか少ないかと言われると、あまり多くない。例えば団塊の世代の人達だと一つの世代で十分回収されてしまう数なので、そういう程度の数字。しかも選挙の場合は全国の選挙区で希釈してしまうから、そういう意味では小さいウェイトかもしれないですね。それを、これからどうやって下の世代に広げていくのかというところが問われているということかもしれません。

さて、他の皆さんどうですか。いきなり核心を突いたというか、投票年齢を引き下げるとタバコとかお酒とかそのままでもいいのかどうかとか、これは全然台本にない話ですね。

○RaMuさん すみません。(笑い)

○西田モデレーター いや、全然いいですよ。ぶっ込んでいくことになっていますが、他の皆さん、例えば枝野さんに聞いてみたいこととか。

○黒川さん そもそも18歳が高いのではないかなと思うんですよね。「保守的なスタンダード」と今おっしゃっていましたがけれども、義務教育が終了するのは15歳とか16歳とかじゃないですか。義務教育って社会で生きていく上で必要な教育で、それを修了しましたというものだと思っていたんですけども、なんで修了したのにその後、高等学校を卒業して選挙権をもらうのかなと思って。本来ならば義務教育を修了したらもう選挙権をもらって、被選挙権ももらってもいいはずだと思うんです。でも、そこを「スタンダード」という言葉で割り切っちゃって、「それが常識でしょ」と言って18歳というのに合わせるのはいかがかなと思って。そこを枝野さんにお伺いしたいんです。

○枝野幹事長 僕は全く同じ意見で、実は義務教育を終えたら社会人として必要なことの最低限のところは教えたことになっているはずなのだから、義務教育を卒業したら選挙権だし、かなりの部分のところを大人扱いでいいのではないかと、僕個人的には思っています。

ただ政治ってみんなの合意をする、どうやって合意をするかというのが実は政治なので、私はそう思っているけれども、「20歳のままでいい」と言っていた人達もたくさんいたし、「最近の若いモンは」という立場から、もっと引き上げてもいいぐらいじゃないかという人もいた中で、みんなが折り合えてまず進めようというところが18歳だったというのが、18歳に今回なった理由です。

○西田モデレーター なるほど。教育基本法という法律があって、14条かな、公民としての政治的知識を伝えるということが書いてあるんですね。だから本来は義務教育が終わった段階で、そういう状態になっているというのが望ましいのかもしれない。

ちなみに投票年齢は18歳に引き下げられたんですけども、来年の参議院選挙の場合は、30歳にならないと立候補できないので、だから18歳の皆さんは投票できるけれども、立候補できない。ちょっと不思議なことになっているということもあります。

会場との意見交換

○西田モデレーター さて、いきなり政治の話にギアが上がっているんですが、会場の皆さん、どうですか？「ちょっとハードル高いな」みたいな感じになっているのではないかと思います。ここまで、例えばわからない言葉とか、政治について考えていることを誰かに聞いてみたいとか。枝野幹事長でもいいと思うんですが、何か意見とか聞いてみたいことがある人はいますか。

○受講生 枝野さんの埼玉5区、大宮に住んでいます。(笑い)

僕は二つ思っていることがあるんですが、まず一つは年齢の線引きの問題です。僕も15歳・16歳でいいと思っていて、その理由が、今出たのももちろんだと思うんですが、もう一つあって、団塊の世代という話もあったんですが、15歳・16歳を入れても、まだお年寄りの方のほうが年齢比率的には圧倒的に多い。それを少しでも是正するという意味でも、これは18歳でも不十分だなと思っているんです。そういう観点からの議論は進んでいるのかなというのが一つです。

あと18歳に引き下げたとしても、僕は今、大学生で政治学を学んでいるんですが、例えば中学校の公民とか高校の政治経済も勉強してきたんですが、僕の場合は大学の附属だったので、結構ディスカッションとかも多めにやったので、それで興味を持ったというのもあるんですが、大体の人は受験をするわけで、そういう詰め込みの公民とか政治経済の授業では選挙に行くようにはならないと僕は思うんです。年齢の引き下げとあわせて、授業内容の中立性とかの話もあるんですが、授業内容をどうするかみたいな議論も進んでいるのか。この二つが気になりました。

○枝野幹事長 想定と違って、いつもしている話と近い話になってきているなと思うんですが、いつものように話していいのでしょうか。

○西田モデレーター 大丈夫だと思います。

○枝野幹事長 最初の話は、気持ちはわからないのではないのだけれども、そういう「こういう世代の人たちの声が強くなってしまふから」みたいな話で恣意的、そういう決め方をしてはいけないものなのではないかなと。決め事、ルールだから、何歳からが一番合理的かということで、その「若い人たちと団塊世代で人口の差がこんなにあるから」ではちょっと違うかなと思うし、実は若い人と年配の人で利害関係が対立するかのよう的印象づけられているとすると、それは我々政治家の責任も大きいかもしれないし、たくさん後ろに來ているメディアの責任も大きいかもしれない。だけど、そういうものではないと思うんです。だって皆さんのおじいちゃんやおばあちゃん、「自分のことよりも孫のことのほうが大事だ」とやってくれているおじいちゃんやおばあちゃんってたくさんいると思う。実際に投票の時にも70代や80代で自分たちの年金よりも子育て支援や教育にお金をかけてくださいということで投票する人もたくさんいると思う。逆に若い人でも、自分らのことよりもおじいちゃんやおばあちゃんの老後のことを考えてもらわなきゃねということで投票する人もいると思うので、そこの年齢のところであまり考えないほうがいいんじゃないかなと僕は思います。

後のほうの話は、議論は始まっているんですけども、この話、ものすごい難しいんですよ。ものすごい難しいというのは、言ってくれたけれども中立性というのがあって、政治の話が学校でやろうとすると、結局その教え方をすると何々党に得じゃないかみたいな、どうしてもそういうことになってしまう。何々党に得じゃないかと言われないうにやろうとすると、無味乾燥でつまらなくなっちゃうというところで、たぶん現場の先生が一番困るのだと思うんです。

そういう意味では、まず学校では基礎になっている知識のところをちゃんと教えてもらう。国会は衆議院と参議院と二つありますよねとか、衆議院は最大4年で参議院は6年だけれども3年ごとに半分ずつ選挙やるんですよとか、そういうことは学校で教えてもらう。そこから先は実は学校の外なのではないかな。ただ、学校の外にそういう場をどうやって作っていけるかというのはなかなか簡単ではないなとは思っています。

○西田モデレーター なかなか難しい問題ですね。特に世代間の問題、確かに枝野さんは美しくまとめていただいたと思うんですが、例えば財源が限られている時に、その財源を若者向けの、例えば子育て支援に充てるのか、それとも年配の人達向けの策に充てるのか。どっちかしか選べないとなった時に、本当に対立せずに済むのかというのも気になるころではあります。しかし、確かに枝野さんおっしゃるとおり、必ずしも若い世代が年長世代を思わないわけでもないし、年長世代の皆さんの中にも若い世代の人達のことを考えてくれる人がいないというわけでもないで、確かに世代間対立を煽るだけというのはよくないところもあると思います。

教育の問題もなかなか難しいですね。長らく日本の教育の中では、政治というのは立場の違いの中で硬直してきたところがあって、特に政治活動自体も高校ではやらないと。基本的には認めないことになっていたんですが、今回、投票年齢の引き下げの中で政治活動も一部、少し制限をつけながら認めていったほうがいいのではないかとということになってということがあります。

だんだん政治っぽくなってきましたね。ところで会場の皆さん、他に聞いてみたいことがある人はいますか。今のような政治に関する話でもいいですし、他、パネラーの方もたくさんいますけれども、例えば皆さんがどう考えているとか、聞いてみたいことがある人、いますか。

○受講生 高校1年です。僕は18歳に選挙権が引き下がることによって、パネラーの皆さんにお聞きしたいんですが、選挙があるちょっと前ぐらいに、たぶん選挙の、こういう代表者がいますよという紙が各ご家庭に配られると思うんですね。ぶっちゃけ、僕が個人的に聞きたいのは、読みますか？という話で、18歳選挙権に引き下げられて18歳も選挙に行けるようになった、でも実際に誰に投票していいのかわからないというのが僕の中では一番の問題ではないかなと思っていて、これについても枝野さんにちょっとご意見を伺いたいなと思っているのが一つ。

あと最近、ネット選挙をやったらどうかなみたいな話が出ていると思います。その件で僕、

最近ちょっと調べたりしているんですが、ネット選挙は自民党でやっていたりしていて、枝野さん的にはネット投票やったほうがいいのかなみたいな、もしそういう意見があったらお聞かせ願いたいです。

○西田モデレーター ちょっと難しいところがあると思うので、少し説明していくと、まず一つ目のところで、選挙が近づいてくると選挙公報というのがあって、どういう候補者がいて、「こういうことを訴えています」というのを書いている紙が来ます。それを見たことがありますかというのが一つ目の質問。

二つ目はネット選挙って何ですかという話なんですけれども、ネット選挙というのは2013年に公職選挙法が改正されて、インターネットを使った選挙運動というのが、一部制限が付きながらできるようになったんです。それはどういうことかということ、例えば選挙運動期間中に「自分に投票してください」とか「この政党に投票してください」とか、そういう呼びかけができるようになった。それをもって「ネット選挙」と呼ぶということなんです。そういうことができるようになったと。

さて、これを受けてパネラーの皆さん、まず「選挙公報を見たことがありますか」というのが一つ。二つ目が「ネット選挙を使ったことがあるか、使ってみようと思うか」、そういうことについて伺えたらと思います。

○RaMuさん 公報、届いても見ないですね。見ないし、駅前で演説しているじゃないですか、「うるさいな」しか思わなかった。本当に関心がなかったので、「今日もすごいうるさいなあ」とずっと思っていた。通るたびに「ウン、うるさいなッ」とずっと思っていた。でも、その人達の立場になったら必死じゃないですか。だから今、届いたら見ます。(笑い)

○西田モデレーター 政治家の皆さんは落選すると次の日から大変ですからね、必死ですよ。でもよく考えてみると、選挙公報って、そもそも家にやってきても新聞とかと一緒にやってきて、今、新聞をあまり皆さん読まなかったり。

○RaMuさん 読まないです。

○西田モデレーター 新聞の平均読者は50歳ぐらいになっているという話もあるので、これは自然なことなんです。

他の皆さんはいかですか。

○紗蘭さん 私も同じです。届いても見ないです。駅前とか、道を車で走っているじゃないですか。手を振られたら手を振り返すけれども(笑い)。あいさつするけれども、「これ何やってんだろう」としか思っていなかったんです。

あと、選挙の投票とかもまだしたことがないからわからないんですけども、投票しないと何か罰ゲームあるのかなと思うし、逆に投票したら何があるのかなと思うし、それはどうなんですか？投票したら、私の一票で何が変わるんですか？

○西田モデレーター 投票した一票で何が変わるか、これも重要だ。

○枝野幹事長 たまに、一年に一遍ぐらい——国会議員だとそうそうないんだけど、村会議員とか市会議員とかだと、例えば1票差で当選と落選が分かれたり、あるいは同じ票数

で、くじ引きで当選者が決まる。同じ票数だと最後はくじ引きになるんです。

○紗蘭さん くじ引き……もうゲームですね、最後は。(笑い)

○枝野幹事長 1票で、こちらの側からすると1票をバカにしてはいけませんよ。本当に1票で落選して4年間、次の選挙までとかいうことがあったりするし、それからちょっとこれは難しい話ですが、今、衆議院の我々の選挙だと比例代表というのがあって、「惜敗率」という複雑な制度があって、これだと最後本当に同じ党の中で競り合うのだけれども、十何票差ぐらいで当落が決まることがあったりする。なので、本当に1票が大きな意味を持つこともあるんです。

○紗蘭さん へーえ、じゃあ、私の一票も強い一票になるんですね。

○枝野幹事長 そうです、そうです。普段は気づかないけれども、そういうことがあると、誰か一人、もう一人投票に行ってくれていれば、みたいなことは選挙をしている側からすればあるんですよ、実は。

○紗蘭さん じゃあ私、手を振っておきながら投票しなかったら、辛いですね、向こう側は。(笑い)

○枝野幹事長 手を振ってくれたから、この人は投票してくれるだろうなあと思うほど、こちらも“うぶ”ではないので。(笑い) この人は手を振っているけれども、投票してくれるかなあ……とか思いながら走っていますけれどもね。(笑い)

○西田モデレーター 今の質問は結構重要なんですけど、これ難しい言葉でいうと「政治的有効性感覚」というんですね。自分の一票が政治を変えようと思うかどうかという数字があって、これ日本人というのは総じて低いと。諸外国の人達というのは、自分の一票が政治を変えようと、あまり根拠はないんですが信じている。でも我々の社会ではあまり信じられていない、それゆえに投票に行かない。ニワトリとタマゴみたいなところがあって、変えないと思っているから行かないし、行かないから変わらないしという負のスパイラルというか、そういうところがあるのも事実ですね。

さて、もう少し皆さんに聞いてみましょうか。公報を読んだことがあるか。

○黒川さん 読んだことはないんですが、読んでもつまらないと思いますし、ちょっと難しい専門用語みたいなのがいっぱいあって、正直言ってそんなに興味もないですし、その専門用語の一つ一つの意味を辞書とかで調べて読む気にもならないし。政治をもっとコメディーみたいにしたらいいと思うんです。政治はかた苦しいイメージがあって、実際にかた苦しいものだと思いますし、そういうのを払拭しなければいけないと思っています。政治を漫才みたいな形でおもしろくしたら、公報とかを4コマ漫画みたいな感じにしたら、それはおもしろいからたぶん僕読みますよ。そういう感じで細部から少しずつでもいいから変換していったら、それなりに関心というか、少なくとも目に触れる機会は高まるのではないかなと僕は思いますね。

○藤井さん 本当にそのとおりだと思います。すごいかた苦しいイメージがあって、何だかよくわからない。議員さんがSNS、ツイッターとかやって、きょうはこんなことしましたと

かやればすごい身近に感じると思うんですよ。ツイッターとか SNS はすごい大きいと思うので、そういうのでその人が何を考えていて、普段どんなことをしていてというのを身近に感じると、たぶん政治とかも身近に感じるのじゃないかなと思います。

○西田モデレーター なるほど。もしかすると、例えばきょうマイク回していただいているウェルダンさんとかが政治を解説いただくとか、それからネットを使って我々のところへ政治についての説明とか来れば見るかもしれないですね。

ところで、政治はかた苦しいという話がありましたが、会場の皆さんにも聞いてみたいと思うんですが、政治はかた苦しいな、難しいなと思う人、どうですか。

[4分の1ほどが挙手]

そうですね、なんとなくかた苦しいですよ。政治、すごい好きみたいな人、何人かいらっしゃるはずですよ。

[5人ほどが挙手]

オッ、なるほど。政治、好き。いいですね。ちょっと当ててみてもいいですかね。政治を何で好きなのか、政治のどういうところが好きなのか、教えてもらってもいいですか。

○受講生 私は今、高校1年生で、去年中学3年生の時に公民の時間で、ちょうど安保法制についての議論をしている夏頃だったので、そういう勉強をたくさんして、戦争をまずしてほしくないという前提のもとで生きていると、この後どうなっていくのかなとか、そういうのを遠いところのことだと思って放っておくと、いつの間にか大変なことになるのではないかなと思って。自分のことにも関わりがあることだということを実感し始めて、それから政治について興味を持って、いろいろテレビを見たり新聞も読んでみたりとかして、将来的にも政治に関わる仕事がしたいなと思うようになりました。

○西田モデレーター なるほど。枝野さん、心強いですね。いかがですか。

○枝野幹事長 心強いですね。みんながそう思ってくればいいのだけれども、なかなかそうもいかない。なかなかそうもいかないのは、さっき「選挙公報が来ても、言葉が難しくても読んでわからない」。たぶん、わからないほうがいいと思って書いている人がたくさんいると思います。つまり、みんなに関心を持たれちゃうと困る人達が、政治家の中にはたくさんいるんです。

できるだけみんなにわかりやすいように書こうと努力している人もいるはずですよ。そこを比較するだけで、中身を見なくても、この人のはわかりやすそうとか、この人のは見てみようという気にさせる感じだとか、まずそこが入り口なんですよ。

ただ難しいのは、新聞に挟まれてくるやつだと大きさとか全部制限があって、あそこに4コマ漫画を入れようと思ったことは僕もあるのだけれども、なかなかあそこには入らない。実はそういう図を入れていいようになったのは最近で、昔は文字でなければだめだった。

○一同 え～!?

○枝野幹事長 矢印とかもつけられなくて大変だった時代が、10年ちょっと前ぐらいまであったんです。最近はその制限はなくなったんですけれども。だから初めから取っつきにく

いようにしているんですね。

ネットで政治との距離は縮まる？

○西田モデレーター 取っ付きにくさという話でいうと、先ほど「ネットを使うといいんじゃないか」という話もありました。2013年の公職選挙法の改正でネット選挙ができるようになって、実は政治家の皆さんや政党も頻繁にネットを使うようになってきているんですね。

たぶん、きょうのパネラーの皆さんも、それから僕も、イベントの案内、民主くんから地獄のように「@マークついてますッ」みたいなのが送られてくるんです。送るな、みたいな。

(笑い) 民主くんは民主党のアイコンとかマスコット、「中の人はいない」ということになっている。きょう僕らが来る前に(会場に)いたそうですね。だから民主くんだけではなくて、民主党もネットで、例えば動画のコンテンツを出しているはずですし、民主党の議員さんも情報発信するようになっていますが、枝野さんはちなみにネットの利活用はいかがですか。

○枝野幹事長 実は私は、ホームページはちゃんと作ってありますが、あとはやっていないんです。なぜかという、一つは、やはり我々の発信で気をつけないと、言葉遣い一つ間違えると、悪く言えば揚げ足を取られるし、誤解して伝わっちゃうと大変だしというのがあるのと、それから実は、無理やり送りつけるわけにはいかないじゃないですか。つまり関心を持って「枝野の書いているやつを読んでみよう」とか思ってくれる人にしか基本的には行かないわけです。これがなかなか難しいです。蓮舫さんは結構たくさんフォロワーがいて、蓮舫さんは、先ほどどなたかが言ったとおり、まさに普段何をやっているか。政治の話はたぶん10分の1ぐらいなんじゃないかと思うんです。「今、何してる？」みたいな話を、まさに普通の人々が普通にツイートしているようにツイートしているわけです。それに時々政治の話が入ってくる、みたいな話をきちっとやれているとフォロワーは広がっていくのだけれども、そこまでやるのはなかなか大変だなと。こんな感じかな。

ちなみに私の場合は、私がやっているのではないんですが、私が全国各地の遊説に行ったときにどんなラーメンを食っているかというフェイスブックのページはあるんです。(笑い)

○RaMuさん かわいい。(笑い)

○西田モデレーター なるほど。政治から情報発信していくのは時には誤解される可能性があるし、もっとわかりやすく言うと“炎上”する可能性があるわけですよね。炎上ありますからね。その中で、例えば枝野さんの場合だと、ちょっと気をつけなければいけないかなということで、遊説に行ったらラーメン食べたのはフェイスブックで出しているけれども、直接は今やっていらっしやらないと。他方でパネラーの皆さんは、やはりネットで欲しい、ネットで来ないと見ないし、わからないよということだったと思うんです。この距離はどう縮めていったらいいですかね。それとも別々に生きていくのか。でもそれだと若い世代と政治というのは全然近づかないから、何か距離が縮まるといいなと僕なんかは思うんですが。こ

れはどうすればいいですかね。

○黒川さん まず前提として、ツイッターとかやっていなくても、例えば会見のコメントとかでネットニュースとかになって炎上すると思うんです。

○西田モデレーター うん、鋭い。

○黒川さん 個人がネットをたくさんやっていなくてもやっても、炎上するかどうかはあまり変わらないと思います。その頻度自体は変わるかもしれませんが、それはツイートを抑えればいだけだと思いますし。

あと多くの大人が勘違いしているのが、若者はネットがあれば関心度が上がるみたいになっていると思うが、例えば投票するところが家の前にあったとしても、関心がない人はその投票所まで行かないと思うんです。それと同じで、仮に自分のスマートフォンでタップして簡単に投票できるようになったとしても、興味ない人は投票しないと思う。選挙が確かに手数としては身近になる。だけど、それが直接的に興味と関心につながっていくとは僕は思わないので、そこの認識の違いというのがあるのかなと思います。

○枝野幹事長 後者は、だから僕はやらないんですよ。たぶん、選挙で勝手に一方的にメールを送れますということにしたら、例えば、東京都民の人で区議会議員選挙、ことしの春にやりました。50人ぐらい立っているんですよ。候補者が50人ぐらい立っているということは、選挙の期間中は1日3回ぐらい、150通ぐらいバンバン勝手に送られてくることになる。みんなできるんだったら、みんなやりますもん。だから「もういいかげんにしてくれ」となると思う。一種の迷惑メールになっちゃう。だから、「メールで送れば、政治に関心持ってもらえる」ではなくて、逆に言うとホームページとかをちゃんと持って、関心を持ってくれたら、ちゃんとネットで情報取れますよ、ということにしておくのがたぶん政治の側のできるある程度の範囲なのかなと。

これに合わせて、蓮舫さんぐらいの——蓮舫さんが昔タレントだったって知っていますよね？蓮舫さんぐらいの人が普段の生活をツイートしていれば、昔からのファンの人とか、そのつながりから政治にも関心を持ってくれる入り口にはなるかもしれない。しかし、僕らはそんな感じでネットをやれば特に若い人たちが政治に関心を持ってくれるかという点と違って、選挙公報に書いてあるようなことを幾らツイートしたって誰も読んでくれないだろうなと思うんです。

○西田モデレーター でも、最初の質問も重要な気がする。つまりネットやっていなくても勝手に、例えば枝野さんの発言が文字起こしされて、例えば民主党が嫌いな人達はそれをもってワーワー言うわけですね。だから、実は気がついていないだけで。

○枝野幹事長 いや、炎上しているのはたくさん気づいているんですが。(笑)

○西田モデレーター もちろんそうだと思います。それに対して、ネットで枝野さんが「そうじゃないんだ」ということを直接ステートメントで出していくのは意味があるような気もしたんですが、その点はいかがでしょうか。

○枝野幹事長 これはテクニカルな話ですが、直接反応するとかえって炎上が広がるとい

うのが過去の経験則です。あえて言うと、例えば僕の場合だと週に一遍記者会見をやって、たぶん今日もこの後あるのだろうけれども、「ぶら下がり」という、記者の皆さんに囲まれて取材を受けて報道されてというのが多い週で2回か3回ぐらいあってと。これはやはり、ものすごく緊張してしゃべるんです。神経張り詰めて。それでも時々、言葉遣いを間違えちゃったなと反省することはあるのだけれども、これを毎日毎日やっていたらちよつともたないな。

震災の時のことを RaMu さん覚えていてくれたみたいだけれど、あの時は1日に5回ぐらい記者会見をやっていて、それが一番疲労困憊した。

○RaMu さん テレビを回すたびに枝野さんが出ていました。

○枝野幹事長 本当にあれはものすごい神経使っていて。新聞記事とかテレビのニュースとかはある意味では言いわけがきくんです。「それは記者の日本語の読解力がないんだ。間違っている、あの読み方は」と。実際そうやって反論していることはたくさんある。ところが自分の言葉として文字で書いて載せちゃうと、もう言いわけがきかなくなる。

○西田モデレーター なるほど。ネットも難しさがあるということですね。

松本さんや紗蘭さんにお伺いしたいんですが、もし枝野さんがネットや動画で、今みたいな感じで政治とか選挙のことをもっとわかりやすく説明してくれたとしたら、どうですかね。

○紗蘭さん 動画だったら、より伝わりやすいのじゃないかなというのはありますね。それでどんどんいろいろな人が拡散していったら、動画って、今は自動的に流れるようになっているので、興味ない人でもちよつと開いて「ああ、こうなんだ」というので知る機会にはなるんじゃないかな。

○松本さん あとはネットとかで自分のところに流れてきた時に、今だったらみんな自分から見に行かないとそれが見られないわけじゃないですか。でも勝手に出た時に、きょうも私みたいな感じで「あまり興味なかったけれども、お話を聞いて少し興味持ったりする人」はいっぱいいると思うんです。直接一回関わってしまえば、興味を持つ人はもっと増えると思うので、そういうのは重要なんじゃないかなと思います。

○西田モデレーター そうですね、だから一回何かの拍子で、政治について触れる機会があると、例えばきょうこういう会場に来るとか、それぞれのファンで会いたいと思って来たのだけれども、枝野さんとかが政治の話をしているところに、「そうか、政治ってあるのか」という機会は意外と重要なかもしれないですね。藤井さんは、ネットで枝野さんとかが説明してくれたり話しかけてきたら、どうですかね。

○藤井さん さっき、何をしているかとか知ったら身近に感じると言ったんですが、ツイートとかって残るわけだし、すごい責任大きいなと思って。公の場に立つというか、私のような芸能人とかたくさんファンのついてきてくれる人が政治に興味を持つことで、その人のファンが「あの子はその辺に興味を持っている。じゃあ私も持ってみよう」みたいな感じになるから、それは私たち、というか私の仕事でもあるのかなと今考えました。

○枝野幹事長 個人でやるとさっき言ったように炎上の話が大変なので、できるだけ党でやったほうが、チームでやるから、そういうのをチェックもできるし反応もできる。そういうことで動画を党でもっとちゃんとやったほうがいいんじゃないかみたいなことはやっているんですよ。

もう一つは、今の最後の話で僕なんか考えているのは、私が自分でネットに書き込むのではなくて、私を見たという書き込みで政治に関心を持ってもらう。だから先ほど駅前でガンガン朝しゃべっているのがうるさいと。うるさいと思われているだろうなと思いながらも、昨日の朝もやっているわけですよ。そうすると少なくとも私がチェックできるだけでも2件か3件ぐらい、「けさ枝野が駅前に立っていたよ」という書き込みが上がるんです。そうするとその仲間の人達は、「枝野って朝、駅に立っているみたいだな」となってくれるわけですよ。というようなことを逆に意識していますね。

○西田モデレーター なるほど。書いてもらうということなんですかね。

若者の投票率を上げるためには？

○西田モデレーター ここまでいろいろと、ネットとか、話が続いてきました。もう少し話を深めていくというか、選挙に行くとか政治に参加するとか、そういうところにちょっとつながっていきたいと思うんですが、ここまで政治に関心がちょっとあったという皆さんと、それからきょうこういうイベントがあるから政治を調べたという方、いや政治にあまり関心なかったという方がいたと思うんですが、ここまで登壇者の皆さん、会場の皆さんと話を続けてきて、どうですかね、政治と皆さんの距離というのは、ここに来る前より関心が増しましたか？どうですか皆さん。

○RaMu さん だいぶ増したんですけれども、まだ距離は……。何か起こさないと、政治と私達若者の距離って絶対に縮まらないと思うんです。例えば先ほど公報をコメディーターふうにやったら私たちも見るとか。そういうシルバー民主主義、やはり20代の投票率が3人に1人以下と言われていて、それぐらい若者が関心がないのはそうかもしれないんですけど、高齢者の方が一番投票してくれる。それで高齢者を支持するのはすごいわかるんですよ。でも、これから未来を担うのって私達若者だと思うので、年金に力を入れるのも確かなんですけれども、教育とか子育ての費用にも充ててほしいなと私、思っています。そのためには私達若者も投票率をすごい上げないといけないなと思うんですよ。そのためには、距離ですよ。距離を縮めないといけないと思うので、私達が興味を引くような選挙。かた苦しく「明日は選挙です。来てください」ではなくて、アーティストさんと呼んでイベントふうにしたり、他のところにお金をかけず、これだけ年齢を引き下げて若者の投票率を上げたいのならば、こういうところにお金をかけてほしいなとすごく思うんです。そのほうが、「あ、選挙に行ったらライブ見られるんだ」とか、ちょっとおかしいかもしれないですけども、少なからず足を運ぶ人は増えると思うんです。

私達みたいなツイッターをすごいやる、ファンが多い人達も、「明日、選挙だよ」みたいな。普通に政治家さんが「明日は選挙です」と言っても、みんな「ああ、そうなんだ」みたいになると思うんですけども、「明日選挙です！私達も行こう！」みたいになったら、ファンだったら、「ああ、あの子も行くんだ。誰に投票するんだろう」って考えるじゃないですか、それで連鎖的にどんどん増えていくんじゃないかなって思うんで、高齢者向けにも演歌歌手さんとかを呼んで、高齢者向けも若者向けもイベントを行って人を集めたら距離も縮むと思うし、足を運ぶ回数も増えると思うんです。

○西田モデレーター RaMuさん、政治について結構予習してくれたんですね。

○RaMuさん もともとちょっと。ちょっとだけですけども。(笑い)

○西田モデレーター なるほど、関心はあったんですね。ちなみにRaMuさんがおっしゃったシルバー民主主義、シルバーデモクラシーというのは、日本でよく言われるとおり超少子高齢化社会で、年長世代の人達のほうがボリュームがすごく大きい。今の20代の皆さんの倍以上いるんですね。1年当たりの出生数とかで見ていくと倍以上いるんですよ。そうすると、枝野さんがそうだと言っているわけではないんですが、政治家からすると、どうやって票を集めようと思った時に、若い人たちに訴えかけていくのか、年長の人達に有利な政策を訴えていくのか、どっちが得か。これは後者のほうがお得感がありますよね。年長の人達向けのことを言って通る、こういうのをシルバーデモクラシーとか言ったりするんですね。だけど何年か先、何十年か先を担っていくのは若い人達だから、若い人達向けのこともちゃんとやらないとだめじゃないかということですね。正論ですね。

枝野さんいかがですか。

○枝野幹事長 幾つか反応したいところはあって、選挙管理委員会が例えばアーティストを使って「投票に行こう」とやるのは、これはオーケーなんです。だけど政党や政治家がやると選挙違反になっちゃうんです。お金取らないと買収になるんです。よく古い政治家は、昔の新宿コマ劇場や、明治座とか、ああいうところに一応会費を取って選挙区から連れてきてというようなイベントをやって自分の支持者を固めるみたいなことをされるんです。これは会費を取らないと選挙違反、買収になっちゃうんです。本来ならばチケットを買わないといけないものを見られちゃうわけだから。元アーティストが選挙に出る時も、自分の持ち歌でも2曲も3曲も歌ったら、それは買収になるんですって。それが難しいというのが一つ。

もう一つは、現にいる政治家自体が年齢が高いわけです。私の51歳でも、全体から見れば政党の幹部としてはべらぼうに若いんです。というところが、無理に若い人たちが喜びそうなアーティストを呼んだりすると、媚びて迎合しているみたいな感じでマイナスになりかねない。これが大変だなという話で、どうしたらいいんだろうなという感じがある。

でも、実は最後の先生の話も僕は違っていると思っていて。いつも投票に行っている人の投票先は大体決まっている。最近の国会議員の選挙なんて投票率50%なので、投票率を60%に増やしたら、つまり投票に行っていない人に投票に来て入れてもらうほうがよっぽど楽。ということは、既に投票率の高い人達の層を狙うよりも、今は投票に行く人が少ない層に一

一。

○RaMuさん 新規を狙う。

○枝野幹事長 そうそう、新規のお客さんを狙ったほうが、実は選挙には特だと僕は思っているんですよ。

○西田モデレーター なるほど、まさにきょうの企画かもしれないですね。ちなみに若い人たち向けの、選管の企画でいうとフラッシュモブ、ネットをやっている人達ならご存じですよ、いきなり人が動き出して踊り出したりする。ああいうのを例えば選管が若い人向けに投票を啓発する活動としてやったりというのがあったりはしますね。

それから、これも確かに利益の供与というのはすごく難しいんですが、最近だと若い候補者の中には、元アーティストの人達が「選挙フェス」と言ってみたりするというアプローチもあったりすることは事実ですね。

投票に行く意味？

○西田モデレーター 他の皆さんどうですか？政治との距離、縮まったと思いますか？それともどうやれば縮まるか。

○黒川さん 僕はあまり変わっていないと思うんですが、究極的な質問になってしまうかもしれませんが、そもそも若者の政治の関心・意欲を上げることに何の意義があるのかということはずっと疑問に思っています。今、若者は、例えば友達が1人いてボール1個あれば結構楽しいと思うんです。若者って、あまりお金がなくても結構幸福な生活を送っていくことができるんですよ。政治ってそもそも機能としては、より多くの人たちを幸福にすることだと思うんですが、それが今複雑化して僕達にはわからなくなって、取っつきにくいものというイメージを抱いていると思うんですが、単純な話で、みんなを幸福にするためのものが政治だと僕は思うんですよ。僕達、幸福なんですよ、結構。なので、関心・意欲が高くなるのも意味があるのかとか、むしろ高くないんじゃないかなと。というのは、例えば高齢者には、年金をもらわないと生きていけない人が多くいて、この国を変えないと、政治に意見を反映しないと、生きていくことができない人達がたくさんいると思うんですよ。ですけれども、僕達みたいな若者って、仮に政治に意見を反映させなくても、この国を変えなくても、結構幸福な生活を歩むことができ、なのになんでわざわざ無理やり政治に関心・意欲を高める努力をしていくのかというのが、まず一つ質問としてあります。

もう一つあるのが、多くの人が「高齢者向けの政策がどんどん優遇されている」みたいなことを言うけれども、この国って高齢者のほうが多いじゃないですか。で、民主主義じゃないですか。ですから高齢者の意見がどんどん推し進められるのって当たり前のことだと思っています。そこをわざわざ「若者の意見を反映させよう」とか、「若者のほうが未来があるから」と言うのは、ちょっとモラルに反するんじゃないかなと思うんです。そこをちょっとお伺いしたいなと思っています。

○西田モデレーター なるほど、鋭い問いですね。ちなみに皆さん、手持ちの資料を見ていただきたいんですが、後ろのほうに「衆議院議員総選挙及び参議院議員通常選挙における年齢別投票率」というのが載っています。最近の選挙の、世代別投票率が載っているわけですね。先ほど、若い人は3人に1ぐらいしか投票に行かないという話がありましたが、どちらの選挙も大体そういうふうになっていて、例えば20～24歳、総選挙も大体35%。これが24年で、26年の時は29.72%ですから、3人に1人も行っていないことがわかります。それに対して、年長世代の皆さんはやはり70%、8割近い数字が並んでいることがわかります。それが先ほどのシルバーデモクラシーという話であり、今の黒川さんの質問に関して言うところになっていると。先ほど申し上げたように、年長の人達の数のほうが多いんだから、そこに訴求していくのは当然なんじゃないか。若い人たちは、黒川さんの意見によると幸せに生きていると。だから、政治のことを考えるのは、確かに枝野さんは投票してもらわないと困るから投票してほしいと思っているけど、若い人は何でコストを払って休みの日なのに投票に行かなければいけないのかということをお問うているということですね。確かにこれは答えるのは難しい問いかもしれませんね。

○枝野幹事長 普段のどんな集会よりもきょうが一番答えに窮するのではないかなと予想してきましたんですが、ものすごい本質的な質問だと思うんです。実は政治って、今を決めるんじゃないんです。明日を決めるんです。今、幸せかもしれません。でも政治が何を定めるかで、明日は全然変わるんです。一番極端なことを言ったら——黒川さん、今何歳ですか。

○黒川さん 16歳。

○枝野幹事長 じゃあ、あと10年後でも対象だと思うから、10年後に日本を徴兵制にしますと決めてもオーケー？

○黒川さん ちょっと嫌ですね。

○枝野幹事長 嫌でしょう。例えば、これから高齢者が大変だから、20代と30代だけ所得税50%にしますと。嫌でしょう？

○黒川さん 嫌ですね。

○枝野幹事長 でも政治って、例えば徴兵制は憲法との関係があるから憲法改正の国民投票の時にやればいやとか、いろいろあるかもしれないけれども、いずれにしても広い意味で、政治が決めることなんです。だから、今は幸せかもしれないけれども、明日も幸せであるためには、政治が変なことにならないようにということについて、自分が持っている権利は使っておかないと、後になってからはなかなか大変だということなんです。

○黒川さん おっしゃるとおりだと思うんですが、今、若者の幸福度指数はたしか70%以上だと思うんですが、でもこの国の未来に対する期待感みたいのってすごい低いんですよ。たしか20とか30%ぐらいなんです。というのは、みんな薄々気づいているんですよ。政治とか経済とかここからどんどん衰退していくんだろうと、多くの人達は思っていると思うんです。なのに、なんで選挙に行く率が低いのかというのは、たぶん直接的な被害というか、自分の幸福を害されると思っていないからだと思うんですよ、政治とか経済とかそうい

う大きなものに、自分の個人的なプライベートな幸福が侵害されるという想像がつかない。そして実際にたぶん侵害されないと思うんですよ。

○**枝野幹事長** 前半は全く同意。自分の個人の生活が影響されないとみんな思っていると思うんだけど、実は絶対に影響される。だって間違いなく、例えば税金がどうなるか。徴兵制がどうなるかは極端な話にしても、所得税が 50%というのは極端にしても、例えば消費税が今 8%で 10%になるかもしれない。これが 20 になるかもしれない、30 になるかもしれない。あるいは年金の掛け金がどうなるかとか、健康保険、今皆さん病院に行ったら、実際にかかっている治療費の 3 割払えばいいんです。これ、高齢化の中でどんどん放っておいたら、たぶん病院に行ったら 5 割払わなければいけないとか 6 割払わなければならないとかになって、自分や家族が病気になった時に、そこそこの収入がないと病院にかかれたいな話になりかねない。

それから皆さん、それぞれ一種、手に職を持っているからいいけれども、例えば普通に学校を卒業して普通に就職活動して就職しようという時に、今たまたま足元はそれなりに求人がいいほうだけれども、政治によっていろいろな波があつて、就職氷河期みたいな時に、たまたま自分が学校を卒業する年に当たっちゃったりすると大変なことになったりすることもある。実はいろいろなところに関わるんです。

確かにバラ色の未来に日本はないというのは、私なんかもそういう論者なので、バラ色の未来はないけれども、今のそこそこの幸せを維持するためには、相当努力しなければならないのじゃないの。それは結構辛いんですよ。バラ色の未来のためにみんな投票に行こうとか、バラ色の未来のためにみんな頑張ろうというほうが、実は夢があつていいんだけど、今そこそこ幸せだよ、それちゃんと守っていくためには相当いろいろなことをやらなければいけないよねという呼びかけなので辛いものだけれども、そういうことなんじゃないかなと思ってるんですよ。

○**西田モデレーター** 将来のことを考えると、投票に行く必要があるということですね。他のパネラーの皆さんのご意見も聞いてみたいと思うんですが、ここまでの話を受けて、松本さん、いかがですか。今々のことではなくて、政治というのは明日のことを決めていく、例えば税金とか年金どうするのかとか、そういうことを考えざるを得ないから、投票したほうがいい、するべきなんだという話があつて、全体的に「行かなきゃいけない感」というのがあるなど、僕なんかは聞いていて思うんですが、やっぱりそういう感じですかね。どういう感想を持ちましたか。

○**松本さん** 正直な話をすると、私も 20 歳で、次の選挙に行けるわけじゃないですか。きょうこの話を聞いて、ここに来る前よりは政治に興味を持ったものの、じゃあ次の選挙、自分が行くのかといたら、たぶん行かないのかなって思ってしまった。

○**西田モデレーター** なんでですかね。ちなみにアンフェアにならないように言っておくと、僕も 20 歳のころは投票にそんなに真面目に行っていなかった。

○**松本さん** 周りの人とかも、たぶんみんなが行っていたら行っていたと思うんですが、み

んなも行っていないからいいや、というのは正直ある。強制じゃないからこそ、たぶんみんな、自分は関係ないから、と行かないのかな。

○西田モデレーター どうやったら、それって変わりますかね。変わらない？変えたほうがいいような気は何となくするんですか。

○松本さん 変えたほうがいいとは思いますが、結局はその人が興味を持つか持たないかとか、あとは自分が今の日本を変えたいと思っているかとか、そういうことに関わると思う。その人がどうでもいいやとか、みんなに合わせればいいやと思っていたら変わらないじゃないですか。結局は自分自身がどう思うかだから、誰が呼びかけてもしょうがないのかなというのは思います。

○西田モデレーター なるほど。紗蘭さん、同じ質問なんですけど、どうお考えになりますか。

○紗蘭さん 行きたいなという気持ちはさっきも言ったとおりあるんですが、でもよく考えたら、実際に今日話を聞いて、何が自分に身についたのかと言われて、「うーん……」という部分はあるので。行ってどうしようとなると、私が入れた一票がむだになりたくはないので、ちゃんと考えていろいろわかった上で投票しないといけないのかなというのは、ちょっと思いました。

○西田モデレーター むだにならない、というのはどういうことなのでしょうね。どうなったらむだにならないんですかね。

○紗蘭さん SNSでの投票もあるのかなってさっきも言っていたけど、それってSNSで流れてきて、適当に投票する人も絶対にいると思うんですよ。そういう軽はずみな行為で、ちゃんと頑張っている方が通れなくて、頑張っていないという言い方もあれなんですけれども、適当に入れたのがたまたまその人が多くて勝っちゃったっていうのはちょっと違うんじゃないかなと思うから、それはむだな投票じゃないかなと思うんです。

○西田モデレーター 真剣に選挙運動をやっている人のところに、エイっと適当に入れて、入った、決まった、決まらない、みたいになっちゃうとよくないような気がするということですね。

○紗蘭さん だから18歳が投票できるようになって、私も含め同じ18歳の人達が、「よっしゃ、選挙権ある。行こう！」という軽い気持ちで行くものじゃないんだなというのは、ちょっと思いました。

○西田モデレーター つまり、枝野さんなんか真剣に政治をやっているからこそ、軽い気持ちで行くということにちょっと抵抗があるということなんですかね。

○枝野幹事長 そういう感じの人が多いいんですかね。

○西田モデレーター 藤井さん、いかがですか。

○藤井さん 確かに今の話を聞いて、SNSで投票するのはすごい簡単だし、みんなもっとやるんじゃないかなと思ったんですが、やっぱり一票の重みってすごいし、それはちゃんと足を運んで投票するというのは変えないほうがいいのかと思ったんです。

楽しいんじゃないかなって思うんですよ。この国がどんなふうに変わっていくのかなと

か、そういうのを考えるのって、楽しいと思うんです。自分が投票した人が落ちちゃっても、また頑張っていたりとか、応援する気持ちになるというか、自分も、政策とかも変わったりしていくのを見ていくのが楽しいという観点もあるんじゃないかなとは思うんですよね。

○西田モデレーター それはもしかすると自分の好きなアイドルとかアーティストが成功していくのを見守っているような、そういうイメージなんですかね。

○藤井さん そうですね。

○枝野幹事長 僕はそれでいいと思うですよ、入り口は。皆さん、例えば学校でクラス替えがあって、新しいクラスができた時に、誰と友達になるかってわからないじゃないですか。第一印象で顔を見て、雰囲気見て、この人、友達になれそうだなと思ってお互いに声をかけ合うじゃないですか。それが間違っていることもあったりして、試行錯誤をするじゃないですか。選挙も、僕らからすれば活動や実績を比較してもらったほうがベターだけれども、まずは例えばポスターが5枚ぐらい並んでいたら、この中で一番信用できそうな顔をしているのは誰かなとか、入り口はそれでいいと僕は思うんです。だって、わからないもん。政策読んで、どっちの政策がいいのかなんてみんな調べている時間はないでしょう。それでたぶん自分が一回入れてしまうと、その入れた人がちゃんと当選したのかしなかったのかとか、当選したならば言っていたとおりのことをやっているのかなとか、気になるでしょう。そこからでいいんじゃないかなという気が僕はするんですよね。

○松本さん 私とかもそうなんですけれども、若い子はたぶん投票しに行くってことをすごい重大なことだと、大人よりは思っていると思うんですよ。だから簡単に行けないというか、それでみんな行かないのかなと思います。

○RaMuさん 話を聞いていて、日本に住んでいるからこそ、高校入ったなら日本のことをよく考えようよとは思いますが。少なくともこの先も日本に住むのだったら、未来も見たほうがいいんじゃないの？ときょう私はすごい思いました。これだけ政治家さんが頑張ってくれているのに、私たちは投票も行かないし、「政治、どうぞどうぞ、勝手にどうぞ」と言っている。そのくせ何かが決まると「おい、何だよそれ！ふざけんなよ！」と言っている感じ。私がそうなんです。(笑い)行かないし、関心がないくせに、決まると「ふざけんなよ！」ってすごい思うんです。自分にも言い聞かせるというのもあるんですけれども、住んでいるのだったら、日本のことにもっと関心を持ったほうがいいんじゃないの？って思いました。

○枝野幹事長 みんな難しく考え過ぎなんです。投票に行かないのはどういうことなのかという、例えば友達5人組で今度の金曜日にどこか食事に行こう、どこに食事に行こうか、「ごめん、私忙しいから、4人で決めておいて」と言ったら、その4人で決めた店が、「そこ、私、嫌いなものがたくさんある。食べられない」って文句言えないでしょう。

○RaMuさん 言えないですね。

○枝野幹事長 でしょう。それだったら一緒にちゃんと相談して、その店はいやだとか、ちゃんと言わなければいけないでしょう。投票に行くってそういうことなんです。政治が決めたことについて文句を言う権利を持つ。投票に行かないというのは、みんなでどこに行くか

決めようという話に「任せた。勝手にやっという」と言うのと同じことになっちゃうんです。

政治家ってどんな人？

○ウェルダン穂積 すみません、急に。先ほど僕、民主くんの“天の声”から聞いたんですけども、「和気あいあいと楽しい雰囲気イベントになるといいなあ」って民主くんは思っているらしくて。ちなみに会場にいる方、今のこの感じ、楽しんでいるという方はおられますか？（笑い）

○ウェルダン福ヶ迫 ぶっちゃけね。（笑い）

[数人が挙手]

○ウェルダン穂積 真面目な話をしているから。

○ウェルダン福ヶ迫 一回飲みたいな、とかあったらね……、そんなこともないか、おれだけか。（笑い）

○ウェルダン穂積 楽しいとおっしゃっている方もおられるので。

○枝野幹事長 確かに想像以上に硬い、真面目な話なんですよ。（笑い）

○ウェルダン穂積 そうなんです！真面目、いいんですけども、真剣に考えておられるから。で、距離感がそんなに詰まっていないから。例えば今、アイドルの話になりましたけれども、枝野さんは本当にガチでAKBのファンなんですね。

○ウェルダン福ヶ迫 ガチ、なんですよ。

○ウェルダン穂積 パッと推しメンを言っても、普通の人は知らないくらい好きなんです。

○枝野幹事長 はい、そうです。（笑い）

○ウェルダン穂積 僕もお話しさせてもらって、「ああ、そうなんだ」と思ったり。

○ウェルダン福ヶ迫 それで距離も縮まるしね。

○ウェルダン穂積 裏のほうにおられる民主党の方とかの話の聞いていると、僕達と同じ人間、ちゃんとした普通の人間が愚痴を言ったり、与党自民党的にも「この部分はいいいね」と言ったりいろいろあって、おもしろいなと。距離感が僕すごい縮まったので、距離感を縮めることにつながればいいなと。

○枝野幹事長 振ってくれたので。さっき先生のお話の中で反応しようかなと思ったんですが、つまりAKBや高校野球システム。つまり高校野球って、地元の近所のお兄ちゃんが頑張って甲子園で活躍して、みたいなの。AKBも秋元さんは似たような戦略で、自分の推しの子がどんどん上がっていくのを一緒に共同作業しているみたいな、こういう幻想を作り上げることによってやっている。実は政治もそういうところがあって、例えば昨日、地元で私のためにこの寒い中でもピラをまいてくれているおじいちゃんやおばあちゃん、おじさんとかおばさんとか集まってきて、なかつ、会費を取らないと違反になっちゃうので、会費制で忘年会をやったわけですよ。やはりこういう人達って、20代でビール箱の上で一人でしゃべっていたお兄ちゃんが、いろいろ仕事をして頑張っている、この人を育てたいと、

みんな言ってくれるわけですよ。そういうふうにやってくれている人達って、たぶんもう政策を超えちゃっているんです。この人間が本当に自分たちの期待どおりに育ってくれるんだろうか、育てたい、と。こんな思いでやってくれている人がたくさんいて、そういう側面って政治は意外と大きい。もちろん最終的には真面目な政策の話なんだけれども、そういうところが入り口で全然構わないと思います。

○松本さん 推しメンを作ればいいということですか？

○枝野幹事長 そうです。(笑い) それも一つの入り口なんです。

○松本さん お～、なるほど。

○RaMuさん 先ほどAKBを好きって言ったじゃないですか。私、KissBeeというアイドルグループに所属しているんですが、この前、ティーンズコレクションのランウェイを私、歩いたんです。その後に仮面女子さんのライブがあって、枝野さんいたんですよ。

○枝野幹事長 あっ、あそこにいたの？さいたまスーパーアリーナ！

○RaMuさん 歩いていましたよ、私！

○枝野幹事長 すみません、知らなかった！

○RaMuさん 歩いていて、「あ、枝野さんいる」みたいな。「なんているの!？」と思ってよくよく調べたら、アイドルが好きって。そうなんだって思ったのに、なんでKissBeeは来てくれないんですか？(笑い)

○枝野幹事長 すみません。今度ご案内ください。

○RaMuさん ぜひ。26日にディファ有明でライブ行いますんで、ぜひ来てください、お願いします。(笑い)

○西田モデレーター これは行かざるを得ない展開かもしれないですね。(笑い)

○枝野幹事長 もうちょっと期間取って。仮面女子さんは去年の11月に、「来年さいたまスーパーアリーナでやるから来てね」と言われたので、さすがに日程を押さえたんです。

○RaMuさん KissBeeも絶対に来てください。

○枝野幹事長 ちょっと先の日程で、どこか大きなイベント。行きます。(笑い)

○西田モデレーター そうですね、距離を縮めていくという意味で言うと、アイドルのライブに行くことになったりするわけですね、なるほど。

○枝野幹事長 僕は距離を縮めるために行っているんじゃないんです。素です

○西田モデレーター 素なんですね。(笑い)

○枝野幹事長 むしろ行きたいのに行けない。

○西田モデレーター 政治が忙し過ぎると。

○RaMuさん だいぶドルオタさんなんですね。

○枝野幹事長 AKB劇場、あんな狭いところに行ったら、そうじゃなくたって絶対に「何か圧力かけて権力使っただろう」と誤解されるので、行けない。

○RaMuさん 私、思いましたもん、ティーンズコレクションで。ああ、なるほど、みたいな。(笑い)

- 枝野幹事長 それはちゃんとお金払って行っております。
- RaMu さん ありがとうございます。
- 西田モデレーター 枝野さんも普通にそういう場に行っているということですね。
- RaMu さん ちょっと距離縮めました。アイドルとの距離は。
- 西田モデレーター 狙って行っているわけではなくて、個人的に。
- 枝野幹事長 狙ってやると、絶対にだめなんですよ、「媚びている」とか「迎合している」とか。私はアイドルはやるけれども、うちに野田佳彦さんという元総理大臣がいます。この人はプロレス、本当に大好きなんです。プロレスヲタだから。彼はプロレスのことは、プロレスの好きな10代の子と普通に会話ができると思います。うちに前原誠司さんという外務大臣をやったおじさんがいるんですけど、この人は鉄ちゃんなんです。やはり、みんな実は政治の他に何か持っているわけですよ。そここのところは、もっと出したほうがいいよね、とは思っているんですよ。
- RaMu さん そうしたらどんどん、「あ、あの人、私と同じ趣味を持っている」って。
- 枝野幹事長 テレビだけ見ていると、私なんかは最近、特に今の立場だと、「枝野さん、最近テレビで見るといつも怒っている」とか、叱られるわけですよ。だけど、仕事でテレビに映るような時は、怒らなければならぬような時しか報道してくれないし。
- RaMu さん ヘラヘラしていたら、逆に。
- 枝野幹事長 ヘラヘラしているとまずいような局面だし。だけど、みんなそういう側面を必ず持っているんで、そこをもっと伝えたほうが、要するに普通の人たまたまの役割としてそういうことをやっているんだというのをわかってもらえんと思うんですよ。
- 西田モデレーター なるほど、これはグッとくる何かかもしれないですね。

若者からの問題提起

- 西田モデレーター さて、あつという間に残り時間10分というところまで来てしまいました。最後にパネラーの皆さんに聞いてみたいと思うんですが、一つは、「もし皆さんが将来政治家になったとすると、どういうことをやってみたいと思うのか」ということ。
- いきなりそんなことを言われても思いつかないよということであれば、こういうことは問題だと思っていて、政治から変えてほしいなど、枝野さんにリクエストしたいと思っていることがあったら聞かせてください。このどちらか、あるいは全然違う話でもいいんですが、一つずつ投げてもらって、最後、枝野さんに答えていただきたいと思います。
- 松本さん 教育のことも大丈夫ですか。私、平成7年生まれって、ゆとり教育がラストの年だったんです。私の先生、結構意地悪で、「下の人にも上の人にも“ゆとり”だつて言われ続けるよ」って言われていた。でも、そういうのを作ったのって、今の私たちよりもっと上の大人達じゃないですか。私達がそう言われなければいけない意味がわからない。その年に生まれちゃっただけで、悪いことしていないのに、「今どきの若者はだめだ」とか“ゆと

り”だ」と言われるのは、ちょっと違うんじゃないかなって。

○黒川さん 身近な問題というか実感があまりなくて、たぶん政治意欲がないと思うんですよね。なので、先ほど枝野さんが言ってくださったことって、結構リアリティーがあるというか、危機感が高まるものだと思うんです。例えば、ある程度の稼ぎがないと病院に実際に行けないとか、結構焦るなどと思って。そんなんだったら、僕普通に選挙に行きますし、それを何とかしてくれる政治家に投票しますし。今の10代とか20代の人達が実感している社会問題というのがポチポチあるんじゃないかと思ひ直して、例えば僕のクラスメイトでも奨学金で学校に通っている人がいるし、他にもお金がない、家庭が裕福じゃないから国公立にしか行けないみたいな人ももちろんいるわけです。そういうところを細部から政策という形で一つ一つ改善していったら、それはその社会問題に当人として直面している人からしたら、選挙に行かざるを得ない危機的な状況ということになるんじゃないかなと思うので、そういうところから真面目にやっていくのも、また政治意欲を高める一つのきっかけになるんじゃないかなと思いますね。

○RaMuさん 二つあるんですけども、私、中学の頃からすごい思っていたのが、バカっぽいこと言うんですけども、なんで高校生まで義務教育にしないのか。今の時代って、高校上がっていないとバカにされるといふか、当たり前前に高校に入っているという感じじゃないですか。で、また18歳に選挙権を引き下げるといふことで、じゃあ高校生まで義務教育でいいんじゃないかとすごく思うのが一点と、選挙権を引き下げて若者が選挙について関心を持てるようにするためには、枝野さんの的にはどうしたらいいか、枝野さんはどう考えているのか聞きたいなと思ひました。

○紗蘭さん 先ほど誰かがおっしゃっていたのと同じなんですけど、お酒やタバコは今は18歳はだめ。だけど選挙権は18歳に与えられて、その違い、なんでそうしたのかなといふのをもうちょっと詳しく聞きたいなと思ひました。

○藤井さん 私は移民についてすごい興味があつて、日本をもっとオープンにしたいなと思ひているんです。今、女性の社会進出とか、女性がもっと働ける場を作ろうといふているんですけども、保育園がいっぱいだったり、子どもの面倒を見てくれる人がいないといふ話をどうにかできないのかなと思ひ場面がたくさんあるんです。その時に考えたのが、フィリピンの方とかタイの方ってよくお手伝いさんとして日本に来るじゃないですか。ですけども、日本ってそれをかなり規制しているイメージがある。フィリピンとかタイの方たちが日本に来た理由って、自分の子どもを学校に行かせるためだとか、自分が働かなければいけないからこっちに来るわけじゃないですか。彼女たちは英語もしゃべれるから、(雇い先の)お母さんは働きに出られるし、子どもは英語をもっと使えるようになるし、お手伝いさんは自分の子どもを学校に行かせることができるから一石三鳥なんじゃないか。移民問題ですけど、なんでそこまで規制するのかなとすごい疑問に思ひています。

○西田モデレーター 多岐にわたつて質問が出ましたね。枝野さん、よろしくお願ひします。

○枝野幹事長 最初の“ゆとり世代”といふられる話、まさに政治って、そういうふう後に

なって影響するわけです。そのゆとり教育ってやっていたのは僕が大学生のころですから。つまり、私もまだ政治家になっていない、その時に決めたことの影響を今受けているわけですよ。というふうに、政治って後になって効くんですね。ただ、皆さんたぶん“ゆとり世代”って一生言われるんですが、それはどの世代もみんな言われるんです。今、団塊世代という人達が65歳を超えて年金をもらったりし始めたので、年金とか医療費とか介護とか、急にお金がかかり始めて大変だ！という話になっているわけです。でも、たまたまあの時代に生まただけで、別に団塊世代に生まれたかったわけではない。ということは、どの世代も必ず言われたりするんですよ。そこはあまり気にしてもしょうがないんじゃないかな。いわゆる“ゆとり教育”って、実は本当のゆとりではなかったと僕は思っていて、本当の“ゆとり”は、同じ中身を長い時間をかけて教えるのがゆとりなので、教える中身を減らして授業の時間も減らしたら、ゆとりでないじゃないかと私はずっと思っているんです。だけど、いわゆる“ゆとり世代”と言われる人たちは、おそらくそのマイナスもあるけれどもプラスもあってということで、そのプラスを活かしていけばいいんじゃないかなと思っています。

それから二つ目。奨学金の話とか、お金がないから国公立って。僕も学校は全部国公立だった。小学校は市立だし。あのころは実は私立と国立で大学の授業料は、10倍まではいかなかったけれども、10倍近く差があったんです。今そんなに差がない分だけ、実は国公立の授業料が上がっちゃっていて、「お金がないから国公立」というのすら聞かなくなっちゃっているというのも深刻です。今までも実はこういう若者向けの政策もやってきたんですが、もっと若い人達に関心を持ってもらうには、こういうところをもっと強調していかなければならないよねと思いました。

それから高校を義務教育化しちゃったらいんじゃないかという話はよくある話なんですよ。ただ一方で、ごく一部だけれども、中学卒業して社会に出て、それで一種、職人芸みたいな世界のところで、それが今も生きているみたいな部分が若干だけ残っているので、義務化するのではなくて、そのかわり授業料を義務教育と同じようにただにしたらいいんじゃないのかというのが僕らがずっと言っている話です。

若者に関心を持ってもらうのにどうしたらいいのか。私個人としては実は「そのためのことをずっとやってきました」という感じなんです。一昨日も大宮駅前に立ったわけですがけれども、二十何年間、朝駅前に立って、うるさいと言われるけれども、例えばうちの選挙区の高校生とかは見ているわけですよ。「そういえば自分が高校生の時も立っていたよね」みたいな話。こういうのって一番身近に感じてもらやすい。顔を見たことがある、時々テレビで難しい顔をしゃべっているおじさん、駅前で見たことがある、みたいな話ってやはりきっかけとして一番大きいと思っています。あまり奇をてらったことをやるよりも、その地域の若い人たちにいかに普段の、テレビを通じてや新聞を通じてではない姿をさらせるのか、みたいな話がやはり一番大きいのではないかなと思うんです。

よく政治家って夏祭りとか盆踊りとかいろいろなところに行ったりするわけですよ。これって何の意味があるかという、ことしは忙しくて12月に餅つきに行けなくて残念だっ

ただのだけれども、餅つきとか夏祭りに行くと地域の子どもたちが来ているわけです。地域の子どもたちが来ているところに来ているヘンなおじさん、そういえばあの人、何かポスター貼ってあった、みたいな話で、こういうことが実はベースなんじゃないのかなと思っています。そういう場をいかに作っていくのか。それも時々勘違いしている下手くそな人がいて、駅前でビラとか配る時に、この人は有権者じゃないからって、高校の制服着ている人に配らない人がある。僕は、それは絶対ダメだからって、高校生だろうが何だろうが、ずっとうちのスタッフは通っていく人に出している。取ってくれたら、高校生でも小学生でも受け取ってもらおう。そこで無視されたら、そもそもそれで政治がいやになっちゃったりするのじゃないかなと思う。そんなことをやってきて、あまり奇をてらわないのがいいのかなと思いつつやっています。

それからきょうも努力しているつもりなんだけれども、できるだけわかりやすい日本語でしゃべる。普通の日本語でしゃべろうとずっと努力しているつもりなんです、あつちの世界にいるとやたら難しい言葉が飛び交う。そういうところといかに翻訳・通訳ができるかなということは、かなり意識してやっているつもりです。

酒・タバコと選挙権の話は、まあ、やりやすいところからやったというのが正直なところだと思います。酒・タバコ、特にタバコの話は嫌煙権の話とか副流煙で周りに迷惑をかける話とか、健康との話でそもそも20歳以上も吸わせるなみたいな話からいろいろあるので、「18歳以上から大人扱い」と簡単にいかないよねとか。大学の新勧コンパでお酒を飲み過ぎてアルコール中毒で死んじゃったみたいな話が時々起こっている状況の中で、大学生には飲ませるな、みたいな意見もあつたりして、なかなか一筋縄ではいかない。だけど、先ほどの話のとおり、世界の先進国の中では18歳でもどちらかという高いぐらいだよ、という話なので、これがまともやりやすかったのでまずはできた。他のことも順次できることからやっていくということなんじゃないのかなと思っています。

最後の移民の問題が一番難しい問題です。どういう人にどういうふうに入ってもらおうか。どういうふうに受け入れるか。例えばフィリピンのメイドさんの話は一番わかりやすい話です。大部分の方はフィリピン本国に家族を残して、一種出稼ぎでやってくる。フィリピンにはメイドさんの大学があるぐらい、一つの専門職としてすごいプロなんです。なおかつ、フィリピンは英語の国なので、英語を使えるから日本でもそこそ言葉は通用するしということなので、この人たちに一時的に出稼ぎに来てもらって、そしたらみんなウイン・ウインだよ、という話にはなるんですよ。メイドさんを入れるなら、介護士さんはどうするのか。実は介護士さんは資格が要るし、という話でこの試験を入れるようにしたのだけれども、試験が難しい漢字で、なんて話が5、6年前にあつたりした。

現に今海外からいろいろな形で入ってきた人の多くはそういう特別な技術を持っているわけではなくて、安くて便利だから一時的に来てもらっている。そういう人は実は日本人のブラック企業以上に苛酷な環境で安い賃金で働かされているみたいな話になっちゃっているのはちょっとまずいよね、とか。そういう人たちが本当は本国に帰らなければいけない

建前だったはずなのに、実は不法残留しちゃって日本で家族ができて、この人たちは出稼ぎだったはずなのに、定住を認めるのか認めないのか、定住を前提にするなら、定住を前提にした制度を作らないと無責任になるし、というものすごい複雑な話がたくさん絡まっていてなかなか動かないのは確かです。

ただ、おっしゃったフィリピンなんかのメイドさんの話は需要もあるし、ほぼ間違いなく出稼ぎベースだ。出稼ぎベースならばあまり大きな仕組みを考えなくても帰ってもらおう。帰ってもらうに当たって向こうに家族もいる。だから、ほぼ間違いなく帰るでしょう。それなりの専門性を持った仕事だからそこそこの給料は必ず払われる。だから人権問題にはなりにくい。そこからやっていくのかなとは思っているんですが、実は一見よさそうだけれども、問題がたくさんあるので、僕も悩んでいます。

最後に一言

○西田モデレーター きょうはここまで、僕の手元に台本はあるんですが、実際はほとんどこれどおりには進行せず、リアルタイムに鋭い質問が投げかけながら進行してきたということになります。本当に時間も迫っているので、最後に一言ずつ皆さんに感想をいただいて、終わりたいと思います。きょうの2時間の感想とか、枝野さんに言いたいこととか。松本さんからお願いしてもいいですか。

○松本さん きょうは来てくださった皆さん、ありがとうございます。そして、この機会をくださったスタッフの方々もありがとうございます。実際こうやって政治に関わる機会が今までなかったのも、本当に枝野さんとも直接お話ができて、すごくいい機会だったなと思います。ありがとうございます。(拍手)

○黒川さん 楽しかったです。枝野さんとかと直接話す機会ってあまりないと思うので、貴重な体験をさせていただいて光栄だなと思いました。ありがとうございます。(拍手)

○RaMuさん 昔からずっと思っていたこととかを直接枝野さんに聞いたので、本当に楽しかったです。ありがとうございます。ぜひ KissBee もはまってください。お願いします。ありがとうございます。(拍手)

○紗蘭さん 本日はありがとうございます。政治にもともと興味のなかった私が、ちょっと知っていきたいなと思った部分もいろいろあったので、今回、枝野さんに直接お話を聞いて楽しかったです。ありがとうございます。(拍手)

○藤井さん きょうは勉強になってすごい楽しかったし、枝野さんのイメージも変わったというか身近に感じられたので、貴重な体験でした。ありがとうございます。(拍手)

○枝野幹事長 私のほうからもありがとうございます。パネラーの皆さん、本当にありがとうございます。来ていただいた皆さんも本当にありがとうございます。私も勉強になりました。

最初、入る前に楽屋で言っていたとおり、僕、講演をして会場の人と質疑応答とかってよ

くやるんですが、きょうが一番大変だろうなと思っていたのですが、やっぱり一番大変でした。(笑い) それだけ、先入観なしに素朴な思いをぶつけてもらうことは我々にとっても大事なことだし、政治ってそういうものなんです、本当は。だけどみんな政治って難しいところから入ろうとしがちだけれど、素朴な疑問とか素朴な感覚のところは実は政治なんだということを皆さんに感じてもらえればうれしいなと思うし、私もこういう機会にそのことを思い出させてもらえて大変ありがたかったなと思います。

「これを機会にぜひ投票に行ってください」とか言いません。これを機会に、ちょっとだけでもいいから、たまにでもいいから、「そういえば政治の話でこの間イベントに行ったんだけど」というのが、チラッとでも頭の片隅に残ってくれば、それはいろいろな思いにつながっていくのではないかと思うので、チラッと頭の片隅に残していただければありがたいと思います。

ありがとうございました。(拍手)

○西田モデレーター まさに枝野さんの話にありましたが、帰って友達と話すとか、きょうのパネラーの皆さんに問いかけていいのかわかりませんが、ネットで問いかけてみるとか、そういうのがいいのかもしれないですね。

時間が長くなってしまいましたが、きょうのイベント、ここまでとさせていただいて、ここから先はウェルダンさんにバトンタッチしてお願いすることになっていますので、ウェルダンさん、どうぞよろしくをお願いします。

閉会のあいさつ

○ウェルダン穂積 ありがとうございました。では民主党のゆるキャラ、民主くんに出てきていただきましょうか。拍手でお迎えをお願いします。(拍手) あれが民主くんです。初めにいましたね。

[民主くん登壇]

○ウェルダン福ヶ迫 時間がなくて、壇上に上がれなかった民主くん、ずっとあそこで待っていましたよ。

○ウェルダン穂積 ツイッターとかLINEで、わかりやすく選挙や政治の情報を発信していますので、QRコードから登録できるんで、よかったらフォローをお願いします。

○ウェルダン福ヶ迫 お手元の紙に、QRコードありますんで。

○ウェルダン穂積 おもしろい写真とかいっぱいありますんで。蓮舂さんをいじったりして、たまに怒られているみたいなので。(笑い) その辺おすすめです。

この「民主党ハイスクール」、1時限目が渋谷ですけれども、来年、原宿とか秋葉原でもやられるので、さっき黒川さんとかおっしゃったようにコメディイにしたり、いろいろあると思うんです。サブカルとつなげたり、ガンダムとかって、政治の話でね、ああいうのをつなげていったら、秋葉原は盛り上がるのじゃないかと思うので、ぜひぜひ今後とも

「民主党ハイスクール」をよろしくお願いします。

では、民主党ハイスクールの黒岩校長にあいさつしてもらいましょう。皆さん、拍手でお迎えください、黒岩校長です。(拍手)

○黒岩宇洋民主党ハイスクール校長(民主党青年委員会委員長・衆議院議員) 皆さん、ようこそ「民主党ハイスクール・1時限目 渋谷」においでくださいまして、ありがとうございます。私は、主催者の民主党の青年委員会委員長、新潟の衆議院議員の黒岩宇洋と申します。

きょうは党からは枝野幹事長、そして西田先生にもパネラーを務めていただきまして、また若い各界の、本当に政治に対しても幅広い観点からご覧いただいている方にお集まりいただきまして、かくも多くの十代の皆さん、これから選挙権も18歳になります。若い皆さんが政治や選挙に関心を持つということは、大きな大きな権利を使って、皆さんがこの国の将来や未来を自分の意思で築いていこうと、そういう時代になってきますので、どうかこれからも大いに政治に関心を持っていただきたいと思います。

○枝野幹事長 予想どおり、予想どおり、いかにも“政治家っぽい”話になったでしょう。この1時間半のノリについていけない。(笑い)

○黒岩校長 そうですね、すみません、硬いところから入ってしまいました。そういう習性なものですから……。 (笑い)

この渋谷の明るいカフェから、本当に皆さんがいろいろなことを考え、たぶん退屈な話もあったかもしれませんが、おもしろい話もあったかもしれません。でも、政治も社会もそんなものですから、どうかこれを機会に大いに大いに皆さんが一步前に出てくれることを心からお願い申し上げまして、「民主党ハイスクール 1時限目 渋谷」の終了とさせていただきます。本当にどうもありがとうございました。(拍手)

17時22分閉会